



ユーザーガイド

AWS サインイン



AWS サインイン: ユーザーガイド

Copyright © 2024 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは、お客様に混乱を招く可能性がある態様、または Amazon の信用を傷つけたり、失わせたりする態様において、Amazon のものではない製品またはサービスに関連して使用してはなりません。Amazon が所有しない他の商標はすべてそれぞれの所有者に帰属します。所有者は必ずしも Amazon との提携や関連があるわけではありません。また、Amazon の支援を受けているとはかぎりません。

Table of Contents

AWS サインインとは？	1
用語	1
管理者	1
アカウント	2
認証情報	2
企業認証情報	2
プロフィール	2
ルートユーザーの認証情報	3
ユーザー	3
検証コード	3
ユーザータイプ	3
ルートユーザー	4
IAM ユーザー	5
IAM IDセンター	5
フェデレーティッド ID	6
AWS ビルダー ID ユーザー	7
サインイン URL について	7
AWS アカウント rootユーザーのサインインURL	7
AWS アクセスポータル	7
IAM ユーザーのサインイン URL	8
フェデレーティッド ID URL	9
AWS ビルダー ID URL	9
セキュリティに関するベストプラクティス	9
利用可能なリージョン	10
へのサインイン方法 AWS	11
にサインインします。 AWS Management Console	11
ルートユーザーとしてサインインする	12
IAM ユーザーとしてサインインする	15
AWS アクセスポータルにサインインします。	16
AWS アクセスポータルにサインインするには	17
を使用してサインインします。 AWS Command Line Interface	18
追加情報	19
フェデレーティッド ID としてのサインイン	19
でサインインします。 AWS ビルダー ID	20

でサインインするには AWS ビルダー ID	20
以下を作成してください。 AWS ビルダー ID	21
AWS ツールとサービス	22
許可リストに追加するドメイン	24
以下のものを使用してください。 AWS ビルダー ID	24
プライバシーとデータ	33
AWS ビルダー ID AWS およびその他の認証情報	34
利用可能なリージョン	35
AWS からサインアウトの方法	36
AWS Management Consoleからサインアウトします。	36
AWS アクセスポータルからのサインアウト	38
AWS ビルダー ID からのサインアウト	38
サインインに関する問題 AWS アカウント のトラブルシューティング	40
AWS Management Console 認証情報が機能しない	41
AWS アカウントアカウントの E メールにアクセスできない	42
MFA デバイスの紛失および故障時の対応	42
AWS Management Console サインインページにアクセスできない	43
AWS アカウント ID またはエイリアスを確認する方法	43
アカウント検証コードが必要	45
AWS アカウントのルートユーザーパスワードを忘れてしまった	45
AWS アカウントのIAMユーザーパスワードを忘れてしまいました。	49
のフェデレーテッド ID パスワードを忘れてしまった AWS アカウント	50
既存の にサインインできず AWS アカウント、同じ E メールアドレス AWS アカウント で新 しい を作成できません。	50
利用停止中の AWS アカウントを再度有効にする必要があります	51
サインインの問題 AWS Support については、 に連絡する必要があります	51
請求に関する問題 AWS Billing については、 に連絡する必要があります	51
小売注文について質問があります	51
の管理に関するヘルプが必要です AWS アカウント	51
AWS アクセスポータルの認証情報が機能しない	51
の IAM Identity Center パスワードを忘れてしまった AWS アカウント	52
サインインしようとする、「お客様ではなく、当社です」というエラーが表示されます。 ...	55
AWS Builder ID の問題のトラブルシューティング	56
メールアドレスが既に使われています	56
メールの確認を完了させることができない	56

サインインしようとする、「お客様ではありません。当社です」というエラーが表示されま す。	57
パスワードを忘れてしまいました	57
新しいパスワードを設定できない	58
パスワードが機能しません。	58
パスワードが機能せず、AWS Builder ID の E メールアドレスに送信された E メールにアクセ スできない	58
MFA を有効にできない	59
認証アプリケーションを MFA デバイスとして追加できない	59
MFA デバイスを削除できない	59
認証アプリケーションを使用して登録やサインインをしようとする、「予期しないエラーが 発生しました」というメッセージが表示されます	59
サインアウトしても完全にサインアウトされない	60
まだ問題を解決しようとしています	60
ドキュメント履歴	61
.....	lxiii

AWS サインインとは？

このガイドは、ユーザーのタイプに応じて、Amazon Web Services (AWS) にサインインするさまざまな方法を理解するのに役立ちます。ユーザータイプとアクセスしたい AWS リソースに基づいたサインイン方法の詳細については、以下のチュートリアルのうちいずれかを参照してください。

- [にサインインします。AWS Management Console](#)
- [AWS アクセスポータルにサインインします。](#)
- [フェデレーテッド ID としてのサインイン](#)
- [を使用してサインインします。AWS Command Line Interface](#)
- [でサインインします。AWS ビルダー ID](#)

AWS アカウント へのログインに問題がある場合は、「[サインインに関する問題 AWS アカウントのトラブルシューティング](#)」を参照してください。AWS ビルダー ID のヘルプが必要な場合は、「[AWS Builder ID の問題のトラブルシューティング](#)」を参照してください。AWS アカウント 作成しようとしています？ [AWS にサインアップします](#)。AWS へのサインアップがユーザーや組織にどのように役立つかについての詳細は、「[お問い合わせ](#)」を参照してください。

トピック

- [用語](#)
- [ユーザータイプ](#)
- [サインイン URL について](#)
- [AWS アカウント 管理者向けのベストプラクティス](#)
- [AWS サインインの利用可能地域](#)

用語

Amazon Web Services (AWS) では、[一般的な用語](#)を使用してサインインプロセスを説明しています。これらの用語を読んで理解することをお勧めします。

管理者

AWS アカウント 管理者または IAM 管理者とも呼ばれます。管理者（通常は情報技術 (IT) 担当者）は、AWS アカウント を監督する個人です。管理者は、組織の他のメンバーよりも高いレベルの AWS アカウント 権限を持っています。管理者は AWS アカウント の設定と実装を行います。IAM

Identity Center ユーザーも作成されます。管理者はこれらのユーザーにアクセス認証情報と AWS サインイン用のサインイン URL を提供します。

アカウント

標準の AWS アカウント で、AWS リソースと、それらのリソースにアクセスできる ID の両方を含みます。アカウントは、アカウント所有者の E メールアドレスとパスワードに関連付けられます。

認証情報

アクセス認証情報またはセキュリティ認証情報とも呼ばれます。認証および認可を実行する際にシステムは、誰が呼び出しをしているかを特定し、リクエストされたアクセスを許可するかどうかを決定するために認証情報を使用します。認証情報は、ユーザーが AWS にサインインして AWS にアクセスするために提供する情報です。人間のユーザーの認証情報には、メールアドレス、ユーザー名、ユーザー定義のパスワード、アカウント ID またはエイリアス、検証コード、および単回使用の多要素認証 (MFA) コードが含まれます。プログラムによるアクセスには、アクセスキーを使用することもできます。可能な場合は、短期のアクセスキーの使用をお勧めします。

認証情報の詳細については、「」の[AWS セキュリティ認証情報](#)を参照してください。

Note

ユーザーが送信しなければならない認証情報の種類は、ユーザータイプによって異なります。

企業認証情報

ユーザーが企業ネットワークやリソースにアクセスする際に提供する認証情報。企業管理者は、社内ネットワークやリソースへのアクセスに使用するのと同じ認証情報を使用するように AWS アカウントを設定できます。これらの認証情報は、管理者またはヘルプデスクの従業員から提供されます。

プロフィール

AWS Builder ID にサインアップすると、プロフィールが作成されます。プロフィールには、入力した連絡先情報と、多要素認証 (MFA) デバイスとアクティブなセッションを管理する機能が含まれます。また、プライバシーやデータの取り扱い方法については、プロフィールをご覧ください。プロフィールとそれがどのように AWS アカウント と関連しているかについての詳細は、「[AWS ビルダー IDAWS およびその他の認証情報](#)」を参照してください。

ルートユーザーの認証情報

ルートユーザーの認証情報は、AWS アカウント の作成に使用したメールアドレスとパスワードです。セキュリティを強化するために、ルートユーザーの認証情報に MFA を追加することを強くお勧めします。ルートユーザー認証情報は、アカウント内の全てのAWSサービスとリソースへの完全なアクセス権を提供します。ルートユーザーの詳細については、「[ルートユーザー](#)」を参照してください。

ユーザー

ユーザーは、AWS 製品への API 呼び出しを行ったり、AWS リソースにアクセスしたりする権限を持つ個人またはアプリケーションです。各ユーザーには、他のユーザーと共有されない一連の固有のセキュリティ認証情報があります。これらの認証情報は、AWS アカウント のセキュリティ認証情報とは異なります。詳細については、「[ユーザータイプ](#)」を参照してください。

検証コード

認証コードは、[多要素認証 \(MFA\) を使用してサインイン](#)プロセス中にユーザー ID を確認します。認証コードの配信方法はさまざまです。テキストメッセージまたは E メールで送信できます。詳細については、管理者にお問い合わせください。

ユーザータイプ

サインインの方法は、AWS ユーザーのタイプによって異なります。AWS アカウント は、ルートユーザー、IAM ユーザー、IAM アイデンティティセンターでのユーザー、またはフェデレーティッド ID として管理できます。AWS ビルダー ID プロファイルを使用して、特定の AWS サービスやツールにアクセスできます。さまざまなユーザータイプを以下に示します。

ルートユーザー

AWS とリソースに完全にアクセスできるアカウント所有者。AWS アカウント を作成し、ルートユーザーの E メールとパスワードを使用してサインインした場合、自分がルートユーザーになります。詳細については、「[ルートユーザー](#)」を参照してください。

IAM ユーザー

特定のカスタム権限が付与された AWS アカウント 内の ID。AWS アカウント を作成していないのに、AWS アカウント ID またはアカウントエイリアス、IAM ユーザー名、パスワードを含むサ

サインイン認証情報を管理者またはヘルプデスクの従業員から提供された場合、あなたは IAM ユーザーです。詳細については、「[IAM ユーザー](#)」を参照してください。

IAM IDセンター

AWS アカウントが AWS Organizations の一部であり、一意の URL を使用して AWS アクセスポータルからサインインするユーザー。これらのユーザーは、IAM アイデンティティセンターで直接作成することも、アクティブディレクトリまたは別の外部 ID プロバイダーで作成することもできます。詳細については、「[IAM IDセンター](#)」を参照してください。

以下の記述のいずれかに該当する場合、あなたは IAM アイデンティティセンターのユーザーです。

- 管理者または no-reply@login.awsapps.com から AWS アクセスポータル URL が記載されたメールが届きました。
- 社内システムと AWS アクセスポータルの両方に同じ認証情報を使用してサインインし、自分の AWS アカウントも AWS Organizations の一部です。

フェデレーテッド ID

外部 ID プロバイダー (IdP) を使用してサインインするユーザー。詳細については、「[フェデレーテッド ID](#)」を参照してください。

以下のいずれかに該当する場合、あなたはフェデレーテッド ID です。

- Amazon、Facebook、Googleでログインするなど、サードパーティの認証情報を利用して、AWS アカウントまたはリソースにアクセスします。
- 同じ認証情報を使用して企業のシステムや AWS サービスにサインインし、カスタムの企業ポータルを使用して AWS にサインインします。

AWS ビルダー ID

アクセスしたい AWS サービスやツールに特別にサインインするための個人プロフィール。、AWS re:Post、などのAWSツールやサービスにサインインしている場合は CodeCatalyst、AWS ビルダー ID ユーザーです CodeWhisperer。詳細については、「[AWS ビルダー ID ユーザー](#)」を参照してください。

ルートユーザー

アカウント所有者またはアカウントルートユーザーとも呼ばれます。ルートユーザーは、AWS アカウントのすべての AWS サービスとリソースへの完全なアクセス権を持ちます。AWS アカウントを

初めて作成する場合は、このアカウントのすべての AWS サービスとリソースに対して完全なアクセス権を持つシングルサインインアイデンティティで始めます。この ID は、AWS アカウントのルートユーザーです。アカウントの作成に使用したメールアドレスとパスワードを使用して、ルートユーザーとしてサインインできます。ルートユーザーは [AWS Management Console](#) の方法でサインインします。サインインの手順については、「[root AWS Management Console ユーザーとしてログインします。](#)」を参照してください。

Important

AWS アカウントを作成する場合は、そのアカウントのすべての AWS のサービスとリソースに対して完全なアクセス権を持つ 1 つのサインインアイデンティティから始めます。このアイデンティティは AWS アカウントのルートユーザーと呼ばれ、アカウントの作成に使用した E メールアドレスとパスワードでサインインすることによってアクセスできます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザーの認証情報は保護し、ルートユーザーでしか実行できないタスクを実行するときに使用します。ルートユーザーとしてサインインする必要があるタスクの完全なリストについては、『IAM ユーザーガイド』の「[ルートユーザー認証情報が必要なタスク](#)」を参照してください。

ルート・ユーザを含む IAM ID の詳細については、「[IAM ID \(ユーザー、ユーザーグループ、ロール\)](#)」を参照してください。

IAM ユーザー

IAM ユーザーは、AWS で作成したエンティティです。このユーザーは、特定のカスタムアクセス権限を持つ AWS アカウント内の ID です。IAM ユーザー認証情報は、[AWS Management Console](#) へのサインインに使用される名前とパスワードで構成されます。サインインの手順については、「[IAM AWS Management Console ユーザーとしてサインインします。](#)」を参照してください。

IAM ユーザを含む IAM ID の詳細については、「[IAM ID \(ユーザー、ユーザーグループ、ロール\)](#)」を参照してください。

IAM ID センター

IAM アイデンティティセンター ユーザーは AWS Organizations のメンバーであり、AWS アクセスポータルを通じて複数の AWS アカウント とアプリケーションへのアクセスを許可できます。会社がアクティブディレクトリ または別の ID プロバイダーを IAM アイデンティティセンター と統合している場合、IAM アイデンティティセンター のユーザーは会社の認証情報を使用してサインインで

きます。IAM アイデンティティセンターは、管理者がユーザーを作成できる ID プロバイダーにもなります。ID プロバイダーに関係なく、IAM アイデンティティセンターのユーザーは、組織の特定のサインイン URL である AWS アクセスポータルを使用してサインインします。IAM Identity Center のユーザーがの URL からサインインできない AWS Management Console。

IAM アイデンティティセンターの人間のユーザーは、以下のいずれかから AWS アクセスポータル URL を取得できます。

- 管理者またはヘルプデスクの従業員からのメッセージ
- IAM Identity Center への参加を促す AWS からのメール

Tip

IAM アイデンティティセンター サービスによって送信されるすべての E メールは、<no-reply@signin.aws> または <no-reply@login.awsapps.com> のアドレスから送信されます。これらの送信者メールアドレスからのメールを受け入れ、迷惑メールやスパムとして処理しないように、メールシステムを設定することをお勧めします。

サインインの手順については、「[AWS アクセスポータルにサインインします。](#)」を参照してください。

Note

AWS アクセスポータルには組織の特定のサインイン URL をブックマークして、後でアクセスできるようにすることをお勧めします。

IAM Identity Center の詳細については、[IAM Identity Center とは](#) を参照してください。

フェデレーテッド ID

フェデレーション ID とは、よく知られている外部 ID プロバイダー (IdP) (例: Amazon、Facebook、Google などの [OpenID Connect \(OIDC\)](#) 互換の IdP) を使用してサインインできるユーザーを指します。Web ID フェデレーションを使用すると、認証トークンを受信できます、そして、AWS でそのトークンを一時的なセキュリティ資格情報と交換し、AWS アカウントのリソースを使用するための権限を持つ IAM ロールにマップします。AWS Management Console や

AWS のアクセスポータルでサインインすることはありません。代わりに、使用している外部 ID によってサインイン方法が決まります。

詳細については、「[フェデレーティッド ID としてのサインイン](#)」を参照してください。

AWS ビルダー ID ユーザー

AWS Builder ID ユーザーは、アクセスしたい AWS サービスまたはツールに特別にサインインします。AWS Builder ID は、すでに所有している、または作成したい AWS アカウント を補完するものです。AWS Builder ID はユーザーを個人として表し、AWS アカウント を使用しなくても AWS サービスやツールにアクセスできます。また、情報を確認したり更新したりできるプロフィールもあります。詳細については、「[でサインインします。AWS ビルダー ID](#)」を参照してください。

サインイン URL について

AWS ユーザーの種類に応じて、次の URL のいずれかを使用して AWS にアクセスします。詳細については、「[ユーザータイプ](#)」を参照してください。

トピック

- [AWS アカウント rootユーザーのサインインURL](#)
- [AWS アクセスポータル](#)
- [IAM ユーザーのサインイン URL](#)
- [フェデレーティッド ID URL](#)
- [AWS ビルダー ID URL](#)

AWS アカウント rootユーザーのサインインURL

ルートユーザーは AWS サインインページ (<https://console.aws.amazon.com/>) から AWS Management Console にアクセスします。

このサインインページには、IAM ユーザーとしてサインインするオプションもあります。

AWS アクセスポータル

AWS アクセスポータルは、IAM アイデンティティセンター のユーザーがサインインしてアカウントにアクセスするための特定のサインイン URL です。管理者が IAM アイデンティティセンター でユーザーを作成するとき、そのユーザーが IAM アイデンティティセンター への参加招待メールを受

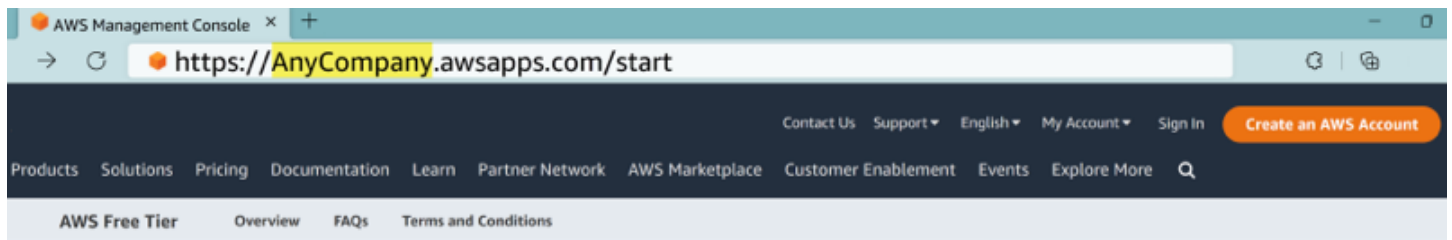
け取るか、管理者またはヘルプデスクの従業員から、ワンタイムパスワードと AWS アクセスポータル URL が記載されたメッセージを受け取るかを選択します。特定のサインイン URL の形式は、次の例のようになります。

```
https://d-xxxxxxxxxx.awsapps.com/start
```

または

```
https://your_subdomain.awsapps.com/start
```

特定のサインイン URL は、管理者がカスタマイズできるため異なります。特定のサインイン URL は D で始まり、その後に 10 個のランダムな数字と文字が続く場合があります。次の例のように、サインイン URL にサブドメインを使用して会社名を含めることもできます。



Note

後でアクセスできるように、AWS アクセスポータルの特定のサインイン URL をブックマークしておくことをお勧めします。

AWS アクセスポータルの詳細については、「[AWS アクセスポータルの使用](#)」を参照してください。

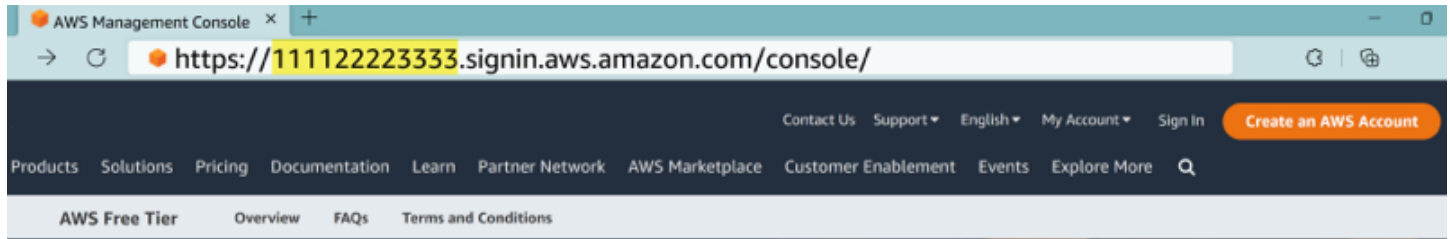
IAM ユーザーのサインイン URL

IAM ユーザーは、特定の IAM ユーザーサインイン URL を使用して AWS Management Console にアクセスできます。IAM ユーザーサインイン URL は AWS アカウント ID またはエイリアスと `signin.aws.amazon.com/console` を組み合わせたものです。

IAM ユーザーのサインイン URL の例：

```
https://account_alias_or_id.signin.aws.amazon.com/console/
```

アカウント ID が 111122223333 の場合、サインイン URL は次のようになります。



IAM ユーザーのサインイン URL を使用して AWS アカウント にアクセスする際に問題が発生する場合、詳細については「[Resilience in AWS Identity and Access Management](#)」を参照してください。

フェデレーティッド ID URL

フェデレーティッド ID のサインイン URL はさまざまです。外部 ID または外部 ID プロバイダー (IdP) は、フェデレーティッド ID のサインイン URL を決定します。外部 ID は、Windows アクティブディレクトリ、Login with Amazon、Facebook、または Google のいずれかです。フェデレーション ID としてサインインする方法の詳細については、管理者にお問い合わせください。

フェデレーション ID の詳細については、「[ウェブ ID フェデレーションについて](#)」を参照してください

AWS ビルダー ID URL

AWS ビルダー ID プロファイルの URL は <https://profile.aws.amazon.com/> です。AWS ビルダー ID を使用する場合、サインイン URL はアクセスするサービスによって異なります。例えば、Amazon にサインインするには CodeCatalyst、に移動します <https://codecatalyst.aws/login>。

AWS アカウント 管理者向けのベストプラクティス

新規 AWS アカウント を作成したアカウント管理者の場合は、ユーザーがサインイン時 AWS セキュリティのベストプラクティスに従うことができるように、以下の手順を推奨しています。

1. [ルートユーザーとしてサインインして多要素認証 \(MFA\) を有効にし](#)、IAM アイデンティティセンター でまだ作成していない場合は、[AWS 管理者ユーザーを作成します](#)。それから、[rootの認証情報を保護し](#)、日常的な作業には使わないようにしましょう。
2. AWS アカウント 管理者としてサインインし、次の ID を設定します。
 - 他の[ユーザー](#)のために[最小特権ユーザー](#)を作成します。
 - [ワークロード用の一時認証情報](#)を設定する。

- アクセスキーは、[長期的な認証情報を必要とするユースケース](#)のためにのみ作成してください。
3. これらの ID へのアクセスを許可する権限を追加します。[AWS マネージドポリシー](#)から始めて、[最小特権パーミッション](#)に移行することができる。
 - [AWS IAM アイデンティティセンター \(AWS シングルサインオンの後継サービス\) ユーザーに権限セットを追加します](#)。
 - ワークロードに使用する IAM ロールに [ID ベースのポリシー](#)を追加します。
 - 長期的な認証情報を必要とするユースケースのために [IAM ユーザー向けの ID ベースのポリシー](#)を追加します。
 - IAM ユーザーの詳細については、[IAM のセキュリティのベストプラクティス](#)を参照してください。
 4. [へのサインイン方法 AWS](#) に関する情報を保存して共有する。この情報は、作成した ID のタイプによって異なります。
 5. アカウントやセキュリティに関する重要な通知を受け取れるように、ルートユーザーのメールアドレスとプライマリアカウントの連絡先電話番号は常に最新の状態にしておいてください。
 - [AWS アカウントのルートユーザーのアカウント名、E メールアドレス、パスワードの変更](#)。
 - [プライマリアカウント連絡先のアクセスまたは更新](#)
 6. ID とアクセス管理のその他のベストプラクティスについては、「[IAM のセキュリティのベストプラクティス](#)」をご覧ください。

AWS サインインの利用可能地域

AWS サインイン は、一般的に使用されているいくつかの AWS リージョンで利用できます。この可用性により、サービスやビジネスアプリケーションへの AWS アクセスが容易になります。サインインがサポートするリージョンの完全なリストについては、[AWS サインイン エンドポイントとクォータ](#)を参照してください。

へのサインイン方法 AWS

サインインする方法は、AWS ユーザーのタイプによって異なります。AWS ユーザーにはさまざまなタイプがあります。アカウントのルートユーザ、IAM ユーザ、IAM Identity Center のユーザ、連携 ID、または AWS ビルダー IDを使用することができる。詳細については、「[ユーザータイプ](#)」を参照してください。

AWS 以下のいずれかの方法でサインインしてアクセスできます。

- ルートユーザーまたは IAM ユーザーとして [にサインインします。AWS Management Console](#) する
- [AWS アクセスポータルにサインインします。](#) IAM Identity Centerのユーザーとして
- [フェデレーティッド ID としてのサインイン](#)
- [を使用してサインインします。AWS Command Line Interface](#) および API や SDK (ソフトウェア開発キット)などのプログラムの方法
- [でサインインします。AWS ビルダー ID](#)

新しいものを作成する場合は AWS アカウント、『AWS セットアップガイド』の「[パート 1: AWS アカウント新しいセットアップ](#)」を参照してください。

にサインインします。AWS Management Console

メインサインイン URL (<https://console.aws.amazon.com/>) AWS Management Console からサインインするときは、ユーザータイプ (ルートユーザーまたは IAM ユーザー) を選択する必要があります。

[ルートユーザー](#)は無制限にアカウントにアクセスでき、AWS アカウントの作成者と関連付けられています。次に、ルートユーザーは IAM ユーザーや AWS IAM アイデンティティセンターのユーザーなどの他のタイプのユーザーを作成し、アクセス認証情報を割り当てます。

[IAM ユーザー](#)は、AWS アカウント 特定のカスタム権限を持つ社内の ID です。IAM ユーザーがサインインすると、メインサインイン URL https://account_alias_or_id.signin.aws.amazon.com/console/ の代わりに、AWS アカウント AWS ユーザー自身またはエイリアスなどを含むサインイン URL を使用できます。<https://console.aws.amazon.com/>

自分がどのようなユーザーか明確でない場合は、「[ユーザータイプ](#)」を参照してください。

チュートリアル

- [root AWS Management Console ユーザーとしてログインします。](#)
- [IAM AWS Management Console ユーザーとしてサインインします。](#)

root AWS Management Console ユーザーとしてログインします。

を初めて作成するときは AWS アカウント、AWS のサービス アカウント内のすべてのリソースに完全にアクセスできる 1 つのサインイン ID から始めます。この ID は AWS アカウント root ユーザーと呼ばれ、アカウントの作成に使用したメールアドレスとパスワードでサインインすることでアクセスされます。

Important

日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザーの認証情報を保護し、それらを使用してルートユーザーのみが実行できるタスクを実行してください。ルートユーザーとしてサインインする必要があるタスクの完全なリストについては、「IAM ユーザーガイド」の「[ルートユーザー認証情報が必要なタスク](#)」を参照してください。

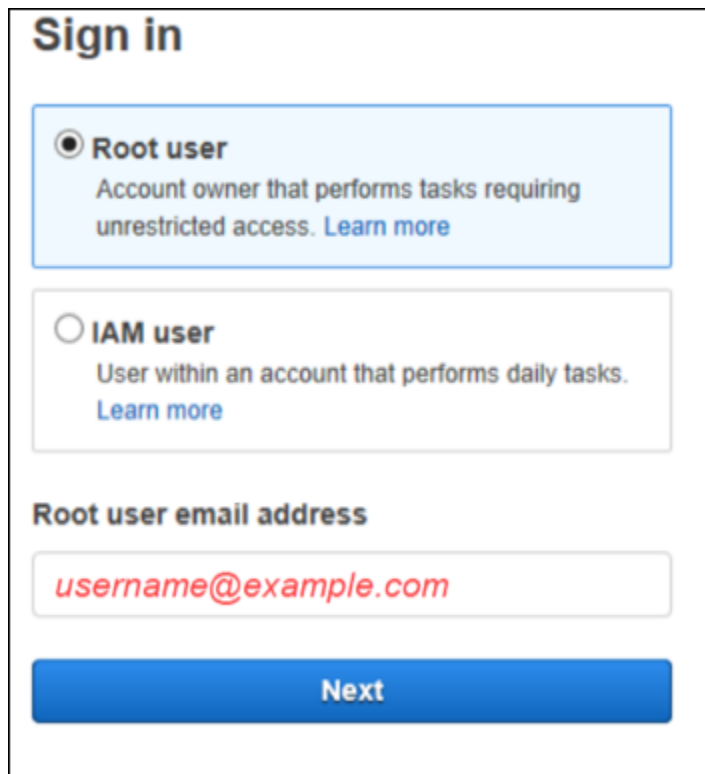
ルートユーザーとしてサインインするには

1. AWS Management Console at を開きます <https://console.aws.amazon.com/>。

Note

以前にこのブラウザを使用して IAM ユーザーとしてサインインしたことがある場合は、代わりに IAM ユーザーのサインインページが表示される場合があります。メインサインインページに戻るには、ルートユーザーの E メールでサインインを選択します。

2. ルートユーザーを選択します。



Sign in

Root user
Account owner that performs tasks requiring unrestricted access. [Learn more](#)

IAM user
User within an account that performs daily tasks. [Learn more](#)

Root user email address

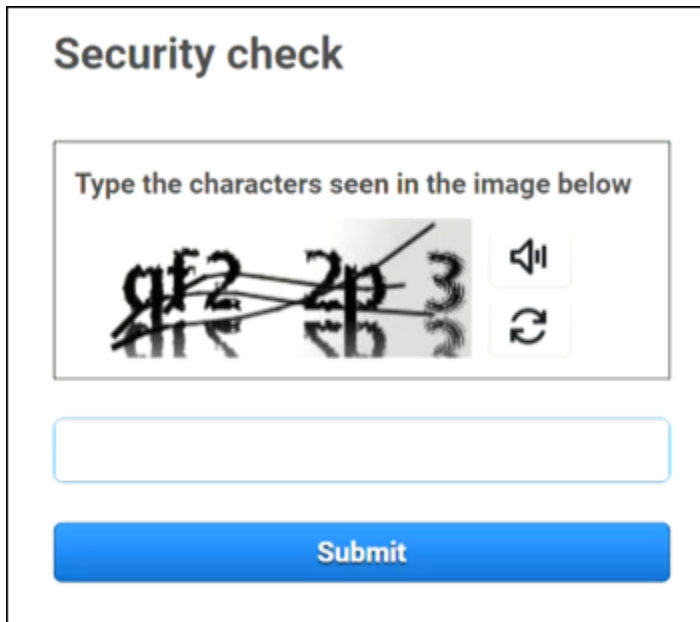
username@example.com

Next

3. ルートユーザーの E メールアドレスに、ルートユーザーに関連付けられている E メールアドレスを入力します。次へを選択します。
4. セキュリティチェックを完了するように求められたら、表示された文字を入力して続行します。セキュリティチェックを完了できない場合は、音声を聞くか、セキュリティチェックを更新して新しい文字セットが試してください。


i Tip

表示される (または聞こえる) 英数字を、スペースを入れずに順番に入力します。



The image shows a 'Security check' screen. At the top, it says 'Security check'. Below that, there is a box with the text 'Type the characters seen in the image below'. Inside this box is a distorted image of the numbers '2', '2', and '3' with a diagonal line through them. To the right of the image are two icons: a speaker icon and a refresh icon. Below the box is an empty text input field. At the bottom of the screen is a blue button labeled 'Submit'.

5. パスワードを入力します。



The image shows a 'Root user sign in' screen. At the top, it says 'Root user sign in' with an information icon. Below that, it says 'Email: *username@example.com*'. Underneath is the label 'Password' and a link 'Forgot password?'. Below these is an empty password input field. At the bottom of the screen is a blue button labeled 'Sign in'. Below the button are two links: 'Sign in to a different account' and 'Create a new AWS account'.

6. MFA で認証します。セキュリティ上の理由から、[ルートユーザーで MFA を有効にすること](#)を強くお勧めします。ルートユーザーの MFA が有効になっていない場合は、ワンタイムパスワード (OTP) チャレンジを完了してサインインの試行を確認するように場合があります。
7. サインインを選択します。AWS Management Console が表示されます。

認証後、AWS Management Console コンソールのホームページが開きます。

追加情報

AWS アカウント root ユーザーについて詳しく知りたい場合は、以下のリソースを参照してください。

- ルートユーザーの概要については、「[AWS アカウント ルートユーザー](#)」を参照してください。
- root ユーザーの使用については詳しくは、「root [ユーザーの使用](#)」を参照してください。AWS アカウント
- root ユーザーのパスワードをリセットする方法については、[を参照してくださいAWS アカウントのルートユーザーパスワードを忘れてしまった。step-by-step](#)。

IAM AWS Management Console ユーザーとしてサインインします。

[IAM ユーザー](#)は、内で作成された ID で、AWS アカウント AWS リソースを操作する権限があります。IAM ユーザーは、アカウント ID またはエイリアス、ユーザー名、パスワードを使ってサインインします。IAM ユーザー名は管理者によって設定されます。IAM ユーザー名は、*Zhang* などのわかりやすい名前でも、*zhang@example.com* などの E メールアドレスでもかまいません。IAM ユーザー名にスペースを含めることはできませんが、大文字、小文字、数字、+ = , . @ _ - などの記号を使用できます。

Tip

IAM ユーザーが多要素認証 (MFA) を有効にしている場合は、認証デバイスへのアクセス権が必要です。詳細については、[IAMサインインページでMFAデバイスを使用するを参照してください。](#)

IAM ユーザーとしてサインインするには

1. AWS Management Console At を開きます。 <https://console.aws.amazon.com/>
2. メインサインインページが表示されます。IAM ユーザーを選択し、アカウントエイリアスまたはアカウント ID を入力して、次へを選択します。

Note

現在のブラウザで IAM ユーザーとして以前にサインインしたことがある場合、またはアカウントのサインイン URL を使用している場合は、アカウント ID やエイリアスを入力する必要がない場合があります。

3. IAM ユーザー名とパスワードを入力し、サインインを選択します。
4. IAM ユーザーの MFA が有効になっている場合は、それを使用して認証します。

認証後、AWS Management Console コンソールのホームページが開きます。

追加情報

IAM ユーザーの詳細については、以下のリソースを参照してください。

- IAM の概要については、「[アイデンティティとアクセス管理とは](#)」を参照してください。
- AWS アカウント ID について詳しくは、「[AWS アカウント ID とそのエイリアス](#)」を参照してください。
- IAM ユーザーパスワードをリセットする方法については、[を参照してください](#) [AWS アカウントの IAM ユーザーパスワードを忘れてしまいました。](#)。 step-by-step

AWS アクセスポータルにサインインします。

IAM ID センターのユーザーはのメンバーです。AWS Organizations IAM Identity Center のユーザーは、特定のサインイン URL AWS を使用してアクセスポータルにサインインすることで、AWS アカウント 複数のアプリケーションやビジネスアプリケーションにアクセスできます。特定のサインイン URL の詳細については、「[AWS アクセスポータル](#)」を参照してください。

IAM Identity Center AWS アカウント にユーザーとしてサインインする前に、以下の必要な情報を収集してください。

- 企業ユーザー名
- 企業パスワード
- 特定のサインイン URL

Note

サインイン後、AWS アクセスポータルセッションは 8 時間有効です。8 時間後に再度サインインする必要があります。

AWS アクセスポータルにサインインするには

1. ブラウザのウィンドウに、https://your_subdomain.awsapps.com/startのような電子メールで提供されたサインインURLを貼り付けます。次に、エンター キーを押します。
2. 企業認証情報「ユーザー名とパスワードなど」を使ってサインインします。

Note

管理者から E メールでワンタイムパスワード (OTP) が送信し、初めてサインインする場合は、そのパスワードを入力します。サインインしたら、今後のサインイン用に新しいパスワードを作成する必要があります。

3. 認証コードの入力を求められた場合は、E メールを確認してください。次に、コードをコピーしてサインインページに貼り付けてください。

Note

認証コードは通常、E メールで送信されますが、配信方法が異なる場合があります。E メールで認証コードを受け取っていない場合は、管理者に認証コードの詳細を確認してください。

4. IAM アイデンティティセンターでユーザーの MFA が有効になっている場合は、それを使用して認証します。
5. 認証後は、AWS アカウント ポータルに表示されるすべてのアプリケーションにアクセスできます。
 - a. サインインするには、[AWS Management Console アカウント] タブを選択し、管理する個別のアカウントを選択します。

ユーザーのロールが表示されます。を開くアカウントのロール名を選択します AWS Management Console。[アクセスキー] を選択して、コマンドラインまたはプログラムによるアクセス用の認証情報を取得します。

- b. 「アプリケーション」タブを選択して利用可能なアプリケーションを表示し、アクセスするアプリケーションのアイコンを選択します。

IAM アイデンティティセンター にユーザーとしてサインインすると、セッションと呼ばれる一定の期間、リソースにアクセスするための認証情報が提供されます。デフォルトでは、ユーザーは 8 AWS アカウント 時間ログインできます。IAM ID センター管理者は、最小 15 分から最大 90 日まで、異なる期間を指定できます。セッションが終了したら、再びサインインできます。

追加情報

IAM アイデンティティセンター のユーザーについての内容は、以下のリソースを参照してください。

- IAM アイデンティティセンター の概要については、「[IAM アイデンティティセンター とは](#)」を参照してください。
- アクセスポータルの詳細については、「AWS [AWS アクセスポータルの使用](#)」を参照してください。
- IAM アイデンティティセンター セッションの詳細については、「[ユーザー認証](#)」を参照してください。
- IAM Identity Center のユーザーパスワードをリセットする方法については、[を参照してくださいの IAM Identity Center パスワードを忘れてしまった AWS アカウント](#)。step-by-step

を使用してサインインします。 AWS Command Line Interface

AWS Command Line Interfaceを使用する予定がある場合は、IAM アイデンティティセンター でユーザーを設定することをお勧めします。AWS アクセスポータルのユーザーインターフェースにより、IAM Identity Center ユーザーは簡単にを選択し、を使用して一時的なセキュリティ認証情報を取得できます。AWS アカウント AWS CLI IAM Identity Center AWS CLI でユーザーを認証するように直接設定することもできます。

IAM ID AWS CLI センターの認証情報を使用してを使用してからサインインするには

- [前提条件](#)を満たしていることを確認してください。

- 初めてサインインする場合は、[aws configure sso](#) ウィザードを使用してプロファイルを設定してください。
- プロファイルを設定したら、次のコマンドを実行して、ターミナルのプロンプトに従います。

```
$ aws sso login --profile my-profile
```

追加情報

コマンドラインを使ったサインインについて詳しく知りたい場合は、以下のリソースを参照してください。

- IAM ID センターの認証情報の使用方法の詳細については、または SDK [の IAM ID センターのユーザー認証情報の取得を参照してください](#)。AWS CLI AWS
- 設定の詳細については、「[IAM Identity Center AWS CLI を使用するようにを設定する](#)」を参照してください。
- AWS CLI サインインプロセスの詳細については、「[サインインと認証情報の取得](#)」を参照してください。

フェデレーテッド ID としてのサインイン

フェデレーテッド ID とは、外部 ID AWS アカウント を使用して安全なリソースにアクセスできるユーザーです。外部認証は、企業の ID ストア (LDAP や Windows の Active Directory など) またはサードパーティー (Login with Amazon、Facebook、または Google でのログインなど) から取得できます。フェデレーテッド ID はポータルにサインインしたり、ポータルにアクセスしたりしません。AWS Management Console AWS 使用する外部 ID のタイプによって、フェデレーション ID のサインイン方法が決まります。

管理者は、<https://signin.aws.amazon.com/federation> を含むカスタム URL を作成する必要があります。詳細については、「[AWS Management Consoleへのカスタム ID ブローカーアクセスの有効化](#)」を参照してください。

Note

管理者はフェデレーション ID を作成します。フェデレーション ID としてサインインする方法の詳細については、管理者にお問い合わせください。

フェデレーション ID の詳細については、[「ウェブ ID フェデレーションについて」](#)を参照してください

でサインインします。AWS ビルダー ID

AWS ビルダー ID は、Amazon、[Amazon CodeCatalyst CodeWhisperer](#)、[認定などの特定のツール](#)やサービスへのアクセスを提供する個人プロフィールです。AWS トレーニング AWS ビルダー ID 個人を表すもので、AWS 既存のアカウントにある認証情報やデータとは無関係です。他の個人プロフィールと同様に、AWS ビルダー ID は、個人的、教育的、キャリア上の目標を達成する過程で、プロフィールにつれて残ります。

すでに所有している AWS アカウント、AWS ビルダー ID または作成したいと考えているものを補完するものです。AWS アカウント AWS は作成したリソースのコンテナとして機能し、それらのリソースのセキュリティ境界を提供しますが、AWS ビルダー ID はユーザー個人を表します。詳細については、[「AWS ビルダー ID AWS およびその他の認証情報」](#)を参照してください。

AWS ビルダー ID は無料です。お支払いいただくのは、AWS で消費したリソースの分のみです AWS アカウント。料金の詳細については、[「AWS 料金表」](#)を参照してください。


トピック

- [でサインインするには AWS ビルダー ID](#)
- [以下を作成してください。AWS ビルダー ID](#)
- [AWS を使用するツールとサービス AWS ビルダー ID](#)
- [許可リストに登録するドメイン AWS ビルダー ID](#)
- [以下のものを使用してください。AWS ビルダー ID](#)
- [プライバシーとデータ入力 AWS ビルダー ID](#)
- [AWS ビルダー ID AWS およびその他の認証情報](#)
- [利用可能なリージョン](#)

でサインインするには AWS ビルダー ID

1. の [サインイン AWS ビルダー ID] ページに移動します <https://profile.aws.amazon.com/> (または、提供されている URL を使用してサービスにアクセスします)。
2. E メールアドレスに、AWS ビルダー ID を作成時に使用した E メールを入力し、次へを選択します。

3. (オプション) このデバイスから今後のサインインしたときに追加の確認を求められないようにするには、信頼できるデバイスですの横にあるボックスをチェックします。

 Note

セキュリティのため、ログインブラウザ、場所、デバイスを分析します。このデバイスを信頼していると報告した場合、サインインするたびに多要素認証 (MFA) コードを入力する必要はありません。詳細については、「[信頼されたデバイス](#)」を参照してください。

4. パスワードの入力ページで、パスワードを入力し、サインインを選択します。
5. 追加認証が必要ページが表示された場合は、ブラウザの指示に従って必要なコードまたはセキュリティキーを入力してください。

以下を作成してください。AWS ビルダー ID

AWS ビルダー ID AWS これを使用するツールやサービスのいずれかにサインアップしたときに作成します。AWS ツールまたはサービスのサインアッププロセスの一環として、E メールアドレス、名前、パスワードを使用してサインアップします。

パスワードは以下の条件を満たす必要があります。

- パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。
- パスワードの長さは8文字から64文字の間でなければなりません。
- パスワードには、次の4つカテゴリから少なくとも1文字を含める必要があります。
 - 小文字 a~z
 - 大文字 A~Z
 - 数字 (0~9)
 - 英数字以外の文字 (~!@#\$%^&* _+=`|\(){};:;'"<>,.?/)
- 最後の3つのパスワードは再使用できません。
- 第三者から漏洩したデータセットを通じて公に知られているパスワードは使用できません。

Note

を使用するツールやサービスは、AWS ビルダー ID AWS ビルダー ID 必要に応じて作成して使用するよう指示します。

作成するには AWS ビルダー ID

1. AWS アクセスしたいツールやサービスの登録ページ、[AWS ビルダー ID またはプロフィールに移動します](#)。
2. 作成 AWS ビルダー ID ページで、メールアドレスを入力します。個人用の E メールを使用することをお勧めします。
3. 次へをクリックします。
4. お名前を入力し、次へを選択します。
5. E メール確認ページで、E メールアドレスに送信された確認コードを入力します。確認を選択します。E メールプロバイダーによっては、Eメールの受信まで数分かかる場合があります。スパムフォルダと迷惑メールフォルダにコードがないか確認してください。5 AWS 分経ってもメールが表示されない場合は、[コードを再送信] を選択します。
6. お客様のEメールを確認した後、パスワードの選択ページで、パスワードとパスワードの確認を入力してください。
7. セキュリティ強化として キャプチャが表示される場合は、表示されている文字を入力してください。
8. 作成 AWS ビルダー ID を選択します。

信頼されたデバイス

サインインページで This is a trusted device(これは信頼できるデバイスです) というオプションを選択すると、そのデバイスのそのウェブブラウザからの今後のすべてのサインインを承認されたものとみなします。つまり、信頼できるデバイスには MFA コードを入力する必要がないということです。ただし、ブラウザ、クッキー、または IP アドレスが変更された場合は、MFA コードを使用して追加の認証を行う必要がある場合があります。

AWS を使用するツールとサービス AWS ビルダー ID

でサインインすると AWS ビルダー ID、AWS 次のツールやサービスにアクセスできます。有料で提供される機能や特典を利用するには、AWS アカウント

AWS クラウドコミュニティ

[Community.aws](#)は、AWS ビルダーのコミュニティによる、またはコミュニティのためのプラットフォームで、ユーザーと一緒にアクセスできます。AWS ビルダー ID教育コンテンツを見つけたり、個人的な考えやプロジェクトを共有したり、他の人の投稿にコメントしたり、お気に入りのビルダーをフォローしたりできる場所です。

Amazon CodeCatalyst

[Amazon AWS ビルダー ID CodeCatalyst](#) を使い始めるときに作成し、Issue、コードコミット、プルリクエストなどのアクティビティに関連付けるエイリアスを選択します。Amazon CodeCatalyst スペースには、チームが次のプロジェクトを成功させるために必要なツール、インフラストラクチャ、環境が揃っている Amazon スペースに他の人を招待してください。AWS アカウント 新しいプロジェクトをクラウドにデプロイするにはが必要です。

Amazon CodeWhisperer

を使用すると、CodeWhisperer AWS アカウント またはクレジットカードを必要とせずに [Amazon](#) を使い始めることができます。AWS ビルダー ID Amazon は、統合開発環境内の既存のコードとコメントに基づいて推奨コードを生成することで、CodeWhisperer生産性を向上させます。

AWS Migration Hub

で [AWS Migration Hub](#)(Migration Hub) にアクセスします AWS ビルダー ID。Migration Hub では、既存のサーバーの確認、移行の計画、各アプリケーションの移行状況の追跡を 1 か所で行うことができます。

AWS re:Post

[AWS re:Post](#) 専門的な技術ガイダンスを提供することで、サービスを活用してイノベーションを加速し、運用効率を向上させることができます。AWS アカウント またはクレジットカードがなくても、re: POST AWS ビルダー ID でサインインしてコミュニティに参加できます。

AWS スタートアップ

学習コンテンツ、ツール、リソース、AWS ビルダー ID [AWS サポートを活用してスタートアップを成長させることができるスタートアップに参加しましょう](#)。AWS

AWS トレーニング と認定資格

[認定資格を取得すると、AWS クラウドAWS スキルビルダーでスキルを磨いたり、AWS トレーニングAWS 専門家から学んだり](#)、業界で認められた資格を取得してクラウドに関する専門知識を証明したりできます。AWS ビルダー ID

ウェブサイト登録ポータル (WRP)

AWS ビルダー ID [をマーケティング用Webサイトの永続的な顧客IDおよび登録プロフィールとして使用できます。](#) [AWS](#)新しいウェビナーに登録したり、登録または参加したすべてのウェビナーを視聴したりするには、「[マイウェビナー](#)」を参照してください。

許可リストに登録するドメイン AWS ビルダー ID

あなたまたは所属する組織が IP またはドメインフィルタリングを実装している場合、ドメインを作成して使用するには許可リストに登録する必要がある場合があります。AWS ビルダー ID 次のドメインは、アクセスしようとしているネットワーク上でアクセスできる必要があります。AWS ビルダー ID

- view.awsapps.com/start
- *.aws.dev
- *.uis.awsstatic.com
- *.console.aws.a2z.com
- oidc.*.amazonaws.com
- *.sso.amazonaws.com
- *.sso.*.amazonaws.com
- *.sso-portal.*.amazonaws.com
- *.signin.aws
- *.cloudfront.net
- opfcaptcha-prod.s3.amazonaws.com
- profile.aws.amazon.com

以下のものを使用してください。AWS ビルダー ID

AWS ビルダー ID AWS これを使用するツールやサービスのいずれかにサインアップしたときに作成します。作成したら、多要素認証 (MFA)、パスワード、AWS ビルダー ID セッションなどのセキュリティ設定を更新および管理できます。

AWS どのツールやサービスが使用しているかについては AWS ビルダー ID、[を参照してください。](#) [AWS を使用するツールとサービス AWS ビルダー ID](#)

トピック

- [AWS ビルダー ID プロフィールを編集してください。](#)
- [AWS ビルダー ID パスワードを変更します。](#)
- [すべてのアクティブなセッションを削除する](#)
- [削除してください。AWS ビルダー ID](#)
- [AWS ビルダー ID 多要素認証 \(MFA\) の管理](#)

AWS ビルダー ID プロフィールを編集してください。

プロフィールの情報はいつでも変更できます。作成に使用したメールアドレスと名前 AWS ビルダー ID、ニックネームを編集できます。

名前は、他の人と交流するとき、ツールやサービスでどのように呼ばれるかを表します。ニックネームは AWS、友達、その他の密接に協力している人々に、あなたがどのように知られたいかを表しています。

Note

AWS ビルダー ID 使用するツールやサービスによって、AWS ビルダー ID 必要なときに自分のツールやサービスを作成して使用できるようになります。

プロフィール情報を編集するには

1. AWS ビルダー ID <https://profile.aws.amazon.com>でプロフィールにログインします。
2. 個人情報を選択します。
3. 個人情報ページで、プロフィールの隣にある **編集**を選択します。
4. プロフィールの編集ページで、名前とニックネームに必要な変更を加えます。
5. 変更の保存をクリックします。プロフィールの更新が完了したことを知らせる緑色の確認メッセージが表示されます。

連絡先情報を編集するには

1. AWS ビルダー ID <https://profile.aws.amazon.com>でプロフィールにログインします。
2. 個人情報を選択します。
3. 個人情報ページで、連絡先情報の横にある **編集ボタン**を選択します。

4. 連絡先情報の編集 ページで、メールアドレスを変更します。
5. メールを確認を選択します。ダイアログボックスが表示されます。
6. E メールでコードを受け取ったら、Eメールの確認ダイアログボックスの 認証コードにそのコードを入力します。確認を選択します。

AWS ビルダー ID パスワードを変更します。

パスワードは以下の条件を満たす必要があります。

- パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。
- パスワードの長さは8文字から64文字の間でなければなりません。
- パスワードには、次の4つカテゴリから少なくとも1文字を含める必要があります。
 - 小文字 a~z
 - 大文字 A~Z
 - 数字 (0~9)
 - 英数字以外の文字 (~!@#\$\$%^&* _+=`|\(){};:;'"<>,.?/)
- 最後の3つのパスワードは再使用できません。

Note

使用するツールやサービスでは、AWS ビルダー ID AWS ビルダー ID 必要に応じてパスワードを作成して使用するよう指示されます。

AWS ビルダー ID パスワードを変更するには

1. AWS ビルダー ID <https://profile.aws.amazon.com>でプロフィールにログインします。
2. セキュリティを選択します。
3. セキュリティ ページで、パスワードの変更を選択します。これにより、新しいページに移動します。
4. パスワードの再入力ページのパスワードに、現在のパスワードを入力します。次に サインインを選択します。
5. パスワードの変更ページの 新しいパスワードで、使用したい新しいパスワードを入力します。次に、パスワードの確認に、使用したい新しいパスワードを再入力します。

- その後、パスワードの変更をクリックします。AWS ビルダー ID プロフィールにリダイレクトされます。

すべてのアクティブなセッションを削除する

ログイン中のデバイスには、現在ログインしているすべてのデバイスを表示できます。デバイスがわからない場合は、セキュリティ上のベストプラクティスとして、まず [パスワードを変更してから](#)、すべてのデバイスからサインアウトしてください。AWS ビルダー ID ビルダー ID のセキュリティページでは、アクティブなセッションをすべて削除することで、すべてのデバイスからサインアウトできます。

すべてのアクティブなセッションを削除するには

- AWS ビルダー ID <https://profile.aws.amazon.com> でプロフィールにログインします。
- セキュリティを選択します。
- セキュリティ ページで、すべてのアクティブなセッションを削除を選択します。
- すべてのセッションを削除ダイアログボックスに全て削除と入力します。セッションをすべて削除すると、を使用してログインした可能性のあるすべてのデバイス (さまざまなブラウザを含む) からサインアウトしたことになります。AWS ビルダー ID 次に すべてのセッションを削除を選択します。

削除してください。AWS ビルダー ID

Warning

を削除すると AWS ビルダー ID、AWS 以前にサインアップしたツールやサービスにはアクセスできなくなります。

削除するには AWS ビルダー ID

- AWS ビルダー ID <https://profile.aws.amazon.com> でプロフィールにログインします。
- プライバシーとデータを選択します。
- プライバシーとデータ ページで、削除 AWS ビルダー ID の下に削除 AWS ビルダー ID を選択します。

4. 各免責事項の横にあるチェックボックスを選択し、続行する準備ができていることを確認します。

⚠ Important

ユーザーを削除すると、AWS ビルダー ID AWS ビルダー ID 自分に関連するすべてのデータが完全に削除され、アプリケーションからデータにアクセスしたり、データを復元したりできなくなります。

5. [削除] AWS ビルダー ID をクリックします。

AWS ビルダー ID 多要素認証 (MFA) の管理

多要素認証 (MFA) は、セキュリティを強化するためのシンプルで効果的なメカニズムです。1 つ目の要因であるパスワードは、ユーザーが記憶する秘密であり、知識要因とも呼ばれます。その他の要因としては、所有要因 (セキュリティキーなど、ユーザーが持っているもの) や継承要因 (生体認証スキャンなど、ユーザー自身のもの) があります。AWS ビルダー ID にレイヤーを追加するように MFA を設定することを強くお勧めします。

複数の MFA デバイスを登録することをお勧めします。例えば、組み込みの認証アプリを登録し、物理的に安全な場所に保管するセキュリティキーも登録することができます。組み込みの認証ソフトを使用できない場合は、登録済みのセキュリティキーを使用できます。認証アプリケーションについては、それらのアプリでクラウドバックアップまたは同期機能を有効にすることもできます。これにより、MFA デバイスを紛失または破損した場合に、プロファイルにアクセスできなくなることを防ぐことができます。

i Note

登録した MFA デバイスを定期的に見直して、最新で機能していることを確認することをお勧めします。また、これらのデバイスは、使用しないときは物理的に安全な場所に保管してください。登録されているすべての MFA デバイスにアクセスできなくなると、AWS ビルダー ID の復元ができなくなります。

次の用途に使用可能な MFA タイプ AWS ビルダー ID

AWS ビルダー ID は、次の多要素認証 (MFA) デバイスタイプをサポートします。

FIDO2 認証機能

[FIDO2](#) は CTAP2 [WebAuthn](#) を含む標準で、公開鍵暗号に基づいています。FIDO 認証情報は、認証情報が作成された Web サイト (AWS など) 固有のものであるため、フィッシング詐欺に対して強固です。

AWS FIDO 認証システムの最も一般的なフォームファクターは、組み込み認証システムとセキュリティキーの 2 つです。FIDO 認証機能の最も一般的なタイプの詳細については、以下を参照してください。

トピック

- [組み込みの認証機能](#)
- [セキュリティキー](#)
- [パスワードマネージャー、パスキープロバイダー、その他の FIDO 認証システム](#)

組み込みの認証機能

一部のデバイスには、TouchID MacBook や Windows Hello 互換のカメラなどの認証機能が組み込まれています。お使いのデバイスが FIDO プロトコル (など WebAuthn) に対応している場合は、指紋や顔を第 2 要素として使用できます。詳細については、[FIDO 認証](#) を参照してください。

セキュリティキー

FIDO2 対応の外付け USB、BLE、または NFC 接続のセキュリティキーを購入できます。MFA デバイスの入力を求められたら、キーのセンサーをタップします。YubiKey または Feitian は互換性のあるデバイスを作ります。互換性のあるすべてのセキュリティキーのリストについては、[FIDO 認定製品](#) をご覧ください。

パスワードマネージャー、パスキープロバイダー、その他の FIDO 認証システム

複数のサードパーティプロバイダーが、パスワードマネージャー、FIDO モードのスマートカード、その他のフォームの要素の機能として、モバイルアプリケーションの FIDO 認証をサポートしています。これらの FIDO 互換デバイスは IAM Identity Center で動作しますが、このオプションを MFA で有効にする前に FIDO 認証機能をご自身でテストすることをお勧めします。

Note

FIDO 認証機能の中には、パスキーと呼ばれる検出可能な FIDO 認証情報を作成できるものもあります。パスキーは、パスキーを作成したデバイスにバインドされている場合もあれば、同期可能でクラウドにバックアップされている場合もあります。例えば、サポートされ

ている Macbook で Apple Touch ID を使ってパスキーを登録し、ログイン時に画面に表示される指示に従って iCloud のパスキーで Google Chrome を使って Windows ラップトップからサイトにログインできます。どのデバイスが同期可能なパスキーをサポートしているか、オペレーティングシステムとブラウザ間の現在のパスキーの相互運用性をサポートしているの詳細は、FIDO アライアンスとワールドワイドウェブコンソーシアム (W3C) が管理するリソースである passkeys.dev の [デバイスサポート](#) を参照してください。

認証アプリケーション

認証アプリケーションは、ワンタイムパスワード (OTP) ベースのサードパーティー認証機能を備えています。モバイルデバイスやタブレットにインストールされた認証アプリケーションを、許可された MFA デバイスとして使用することができます。サードパーティー認証アプリケーションは、6桁の認証コードを生成できる標準ベースのタイムベースドワンタイムパスワード (TOTP) アルゴリズムである RFC 6238 に準拠している必要があります。

MFA を求めるプロンプトが表示されたら、認証アプリケーションから有効なコードを入力ボックスに入力する必要があります。ユーザーに割り当てられた各 MFA デバイスは一意であることが必要です。1人のユーザーに対して2つの認証アプリを登録することができます。

以下の有名なサードパーティーの認証アプリケーションから選択できます。ただし、TOTP 準拠のアプリケーションはどれも MFA AWS ビルダー ID で動作します。

オペレーティングシステム	テスト済みの認証アプリ
Android	1Password 、 Authy 、 Duo Mobile 、 Microsoft Authenticator 、 Google Authenticator
iOS	1Password 、 Authy 、 Duo Mobile 、 Microsoft Authenticator 、 Google Authenticator

AWS ビルダー ID MFA デバイスの登録

Note

MFA にサインアップし、サインアウトしてから同じデバイスでサインインすると、信頼できるデバイスでは MFA の入力を求められない場合があります。

認証アプリケーションを使用して MFA デバイスを登録するには

1. AWS ビルダー ID <https://profile.aws.amazon.com> でプロフィールにログインします。
2. セキュリティを選択します。
3. セキュリティ ページで、デバイスの登録を選択します。
4. MFA デバイスの登録 ページで、認証アプリケーションを選択します。
5. AWS ビルダー ID QR コードグラフィックなどの設定情報を操作して表示します。図は、QR コードに対応していない認証アプリケーションでの手動入力に利用できる「シークレット設定キー」を示しています。
6. 認証アプリケーションを開きます。アプリのリストについては、「[認証アプリケーション](#)」を参照してください。

認証アプリケーションが複数の MFA デバイスまたはアカウントをサポートしている場合は、新しい MFA デバイスまたはアカウントを作成するオプションを選択します。

7. MFA アプリケーションが QR コードをサポートしているかどうかを判断し、認証アプリケーションの設定 ページで以下のいずれかの操作を行います。
 1. QR コードの表示を選択し、アプリケーションを使用して QR コードをスキャンします。例えば、カメラアイコンまたは スキャンコード に似たオプションを選択します。次に、デバイスのカメラでコードをスキャンします。
 2. シークレットキーを表示をクリックし、そのシークレットキーを MFA アプリケーションに入力します。

完了すると、認証アプリケーションがワンタイムパスワードを生成して表示します。

8. 認証システムコードボックスに、現在認証アプリケーションに表示されているワンタイムパスワードを入力します。MFA の割り当てを選択します。

Important

コードを生成したら、即時にリクエストを送信します。コードを生成してからリクエストを送信するまでに時間がかかりすぎると、MFA デバイスはと正常に関連付けられていますが AWS ビルダー ID、MFA デバイスは同期されていません。これは、タイムベースドワンタイムパスワード (TOTP) の有効期間が短いために起こります。その場合は、デバイスの再同期ができます。詳細については、「[認証アプリケーションを使用して登録](#)」

やサインインをしようとすると、「予期しないエラーが発生しました」というメッセージが表示されます」を参照してください。

9. デバイスにわかりやすい名前を付けるには、「名前を変更 AWS ビルダー ID」を選択します。この名前は、このデバイスを登録した他のデバイスと区別するのに役立ちます。

これで MFA デバイスを使用する準備が整いました。AWS ビルダー ID

セキュリティキーを使用して MFA を登録する

セキュリティキーを使用して MFA デバイスを登録するには

1. AWS ビルダー ID <https://profile.aws.amazon.com>でプロフィールにサインインします。
2. セキュリティを選択します。
3. セキュリティページで、デバイスの登録を選択します。
4. MFA デバイスの登録ページで、セキュリティキーを選択します。
5. セキュリティキーが有効になっていることを確認します。別の物理セキュリティキーを使用する場合は、それをコンピューターに接続します。
6. 画面上の指示に従います。操作性は、オペレーティングシステムとブラウザによって異なります。
7. デバイスにわかりやすい名前を付けるには AWS ビルダー ID、「名前を変更」を選択します。この名前は、このデバイスを登録した他のデバイスと区別するのに役立ちます。

これで MFA デバイスを使用する準備が整いました。AWS ビルダー ID

MFA デバイス名の変更

MFA デバイスの名前を変更するには

1. AWS ビルダー ID <https://profile.aws.amazon.com>でプロフィールにサインインします。
2. セキュリティを選択します。ページに到達すると、名前の変更がグレーアウトされていることがわかります。
3. 変更する MFA デバイスを選択します。これにより、名前の変更を選択できます。そしたら、ダイアログボックスが表示されます。
4. 表示されるプロンプトで、MFA デバイス名に新しい名前を入力し、名前の変更を選択します。名前を変更したデバイスは、多要素認証 (MFA) デバイスに表示されます。

MFA デバイスを削除する

2 つ以上の MFA デバイスをアクティブに保つことを推奨します。デバイスを削除する前に、「[AWS ビルダー ID MFA デバイスの登録](#)」を参照して交換用の MFA デバイスを登録してください。AWS ビルダー ID ビルダー ID の多要素認証を無効にするには、登録されているすべての MFA デバイスをプロフィールから削除します。

MFA デバイスを削除するには

1. AWS ビルダー ID <https://profile.aws.amazon.com> でプロフィールにログインします。
2. セキュリティを選択します。
3. 変更する MFA デバイスを選択したら、削除を選択します。
4. MFA デバイスを削除しますか? モーダルでは、指示に従ってデバイスを削除してください。
5. 削除をクリックします。

削除したデバイスは、多要素認証 (MFA) に表示されなくなります。

プライバシーとデータ入力 AWS ビルダー ID

「[AWS プライバシー通知](#)」には、私たちがお客様の個人データをどのように扱うかが概説されています。AWS ビルダー ID プロフィールを削除する方法については、[を参照してください](#) [削除してください](#)。AWS ビルダー ID。

データのリクエスト

私たちはお客様のデータとプライバシーについて透明性を保ちます。AWS ビルダー ID ビルダー ID が保存するお客様に関するデータをリクエストして表示できます。

個人データをリクエストするには

1. AWS ビルダー ID <https://profile.aws.amazon.com> でプロフィールにサインインします。
2. プライバシーとデータを選択します。
3. プライバシーとデータページの 個人 AWS ビルダー ID データで、データをリクエストするを選択します。
4. リクエストが受領され 30 日以内に処理が完了されることを知らせる緑色の確認メッセージがページ上部に表示されます。

5. リクエストが処理されたことを知らせるメールを受け取ったら、AWS ビルダー ID プロフィールの「プライバシーとデータ」ページに戻ってください。新しく表示された データを含む ZIP アーカイブをダウンロードボタンを選択します。

AWS ビルダー ID AWS およびその他の認証情報

AWS ビルダー ID AWS アカウント あなたの認証情報は他の認証情報やサインイン認証情報とは別のものです。AWS ビルダー ID 自分のメールアドレスと、のルートユーザーのメールアドレスに同じメールを使用できます。AWS アカウント

そして AWS ビルダー ID:

- を使用するツールやサービスにアクセスできます AWS ビルダー ID。
- AWS アカウント またはアプリケーションで指定したポリシーや構成など、既存のセキュリティ制御には影響しません。
- 既存のルート、IAM ID センター、IAM ユーザー、認証情報、またはアカウントを置き換えません。
- 、 AWS SDK AWS Management Console AWS CLI、または AWS AWS Toolkit にアクセスするための IAM 認証情報を取得できない。

AWS アカウント は、連絡先と支払い情報が格納されたリソースコンテナです。これにより、S3、EC2、AWS Lambdaなどの課金サービスや従量制サービスを運用するためのセキュリティ境界が確立されます。アカウントオーナーはサインインできます。AWS アカウント AWS Management Console詳細については、「[AWS Management Consoleへのサインイン](#)」を参照してください。

既存の IAM ID センター ID AWS ビルダー ID とどのように関連しているか

ID を所有する個人は、AWS ビルダー IDを管理する。学校や職場など、他の組織で持っている他のアイデンティティとは関連がありません。IAM Identity Center では、ワークフォース ID を使用して仕事上の自分を表し、別のワークフォース ID AWS ビルダー ID を使用してプライベートな自分を表すことができます。これらの ID は独立して動作します。

AWS IAM Identity Center (AWS シングルサインオンの後継者) のユーザーは、企業の IT 管理者またはクラウド管理者、または組織の ID プロバイダー (Okta、Ping、Azure など) の管理者によって管理されます。IAM アイデンティティセンターのユーザーは、AWS Organizationsの複数のアカウントのリソースにアクセスできます。

複数のプロファイル AWS ビルダー ID

各 ID AWS ビルダー ID に固有のメールアドレスが使用されていれば、複数のアカウントを作成できます。ただし、AWS ビルダー ID 複数使用すると、AWS ビルダー ID どれをどの目的に使用したかを思い出すのが難しくなります。可能な場合は、AWS ツールやサービスのすべてのアクティビティに 1 AWS ビルダー ID つのものを使用することをおすすめします。

利用可能なリージョン

AWS ビルダー ID は以下で利用可能です AWS リージョン。AWS ビルダー ID を使用するアプリケーションは他の地域でも動作する可能性があります。

名前	Code
米国東部 (バージニア北部)	us-east-1

AWS からサインアウトの方法

AWS アカウントからのサインアウト方法は、AWS ユーザーのタイプによって異なります。アカウント・ルート・ユーザ、IAM ユーザ、IAM Identity Center のユーザ、連携 ID、または AWS Builder ID ユーザになることができます。自分がどのようなユーザーか明確でない場合は、「[ユーザータイプ](#)」を参照してください。

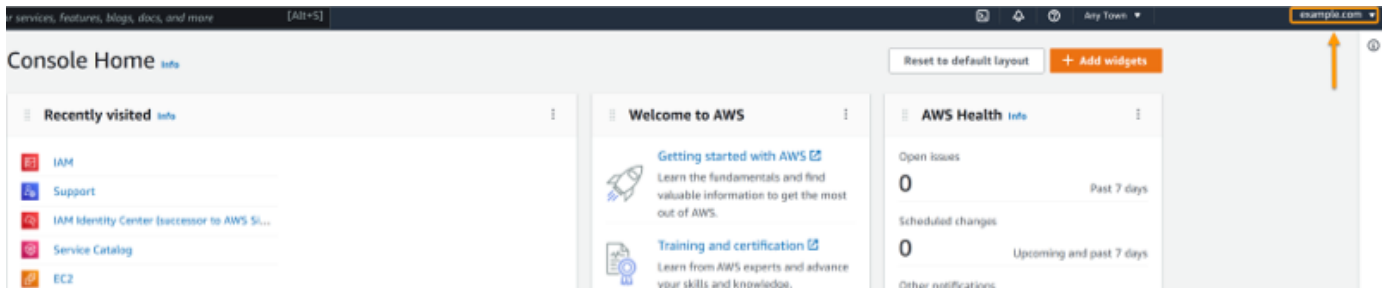
トピック

- [AWS Management Consoleからサインアウトします。](#)
- [AWS アクセスポータルからのサインアウト](#)
- [AWS ビルダー ID からのサインアウト](#)

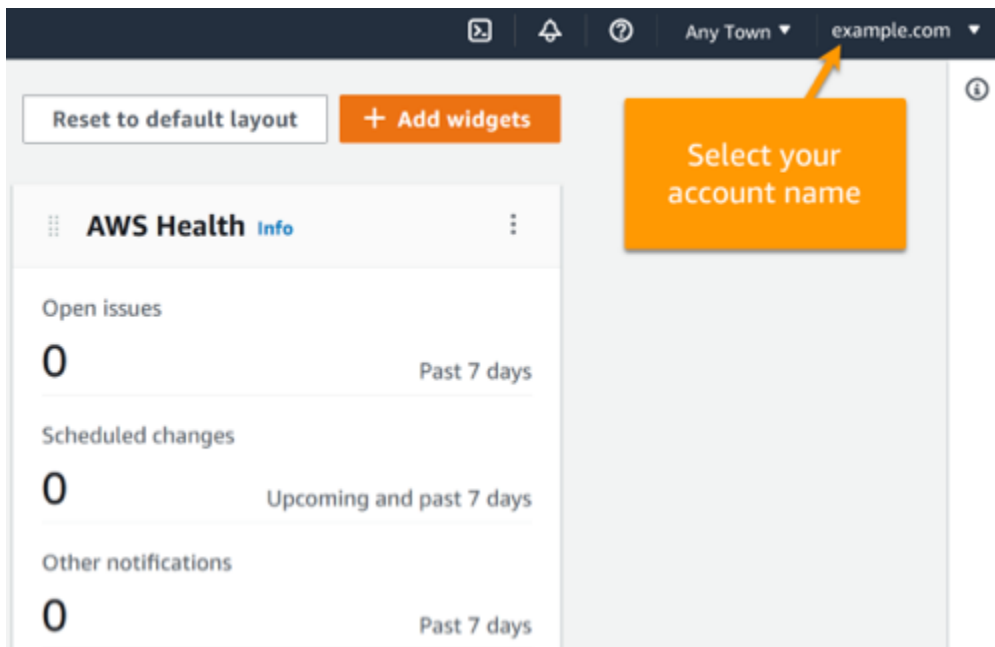
AWS Management Consoleからサインアウトします。

AWS Management Consoleからサインアウトします。

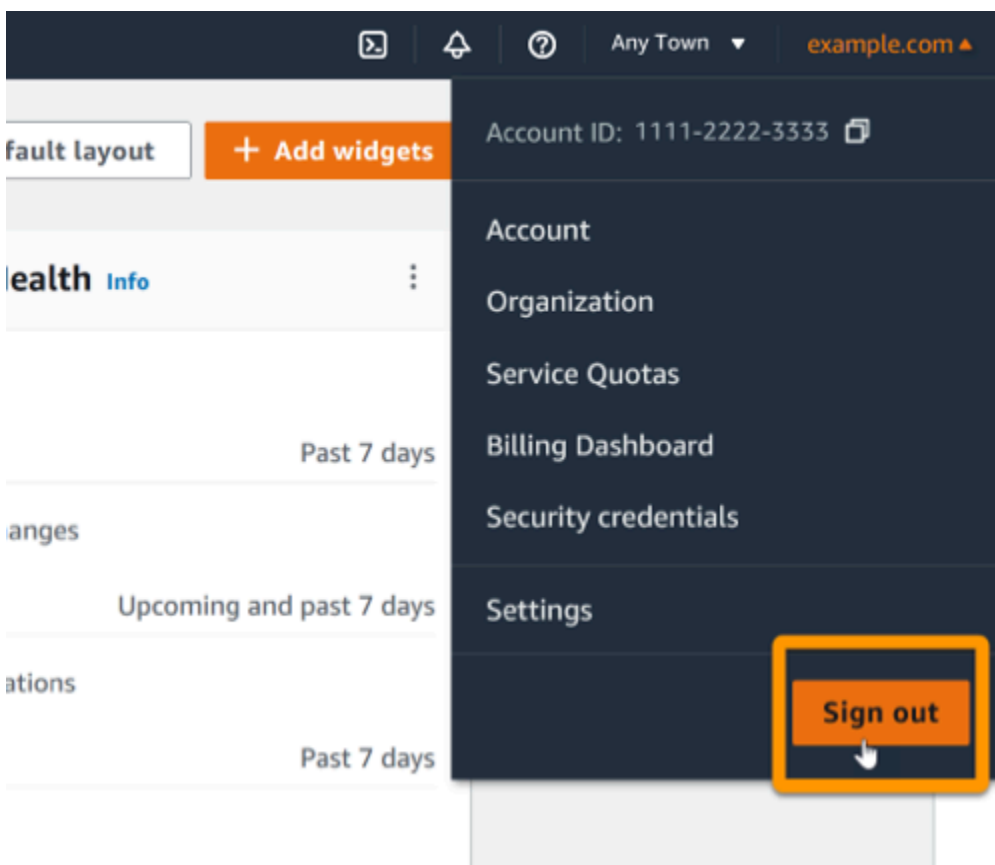
1. AWS Management Console へのサインインが完了すると、次の図に示すようなページが表示されます。右上隅にアカウント名または IAM ユーザー名が表示されます。



2. 右上のナビゲーションバーでユーザー名を選択します。



3. 次の図に示すように 個人情報サインアウト個人情報 を選択します。

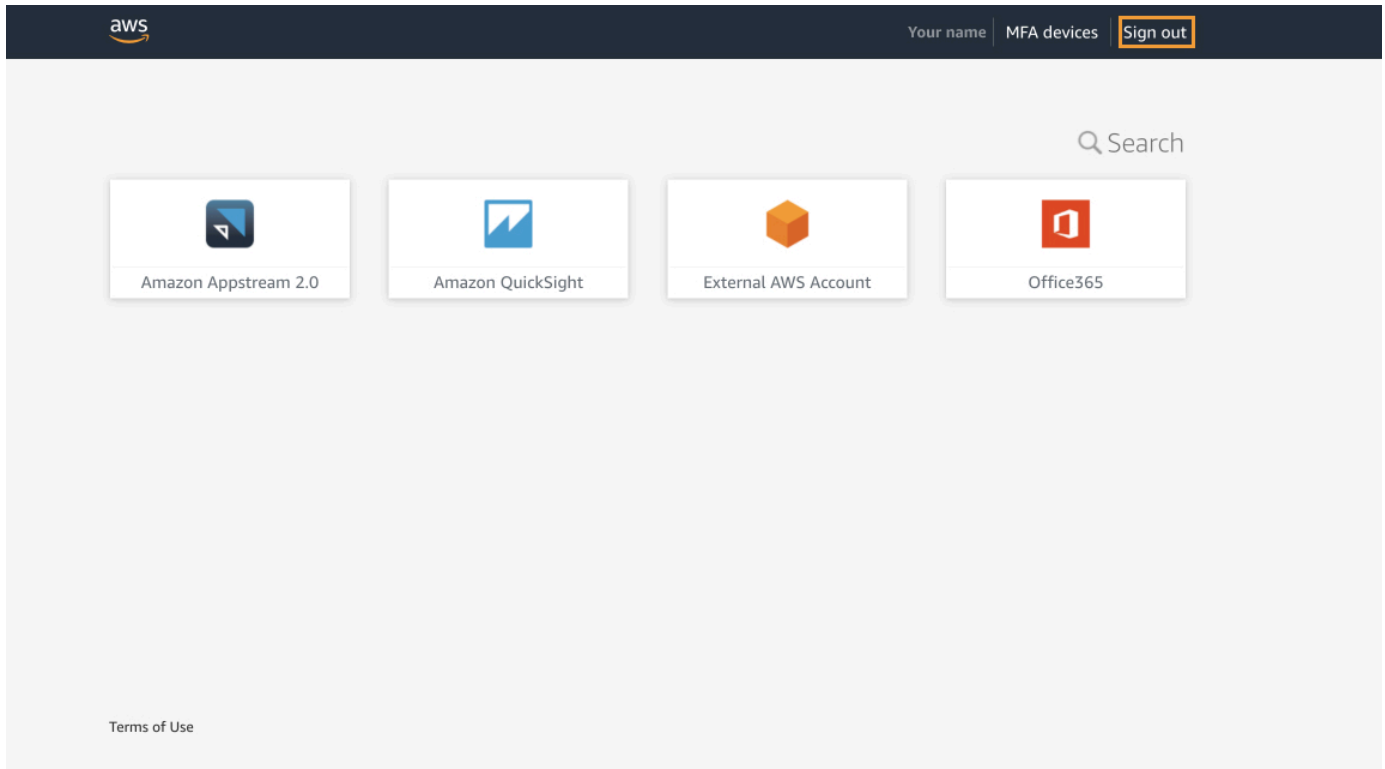


4. AWS Management Console ウェブページに戻ります。

AWS アクセスポータルからのサインアウト

AWSアクセスポータルにサインインします。

1. アクセスポータルの右上にあるサインアウトを選択します。



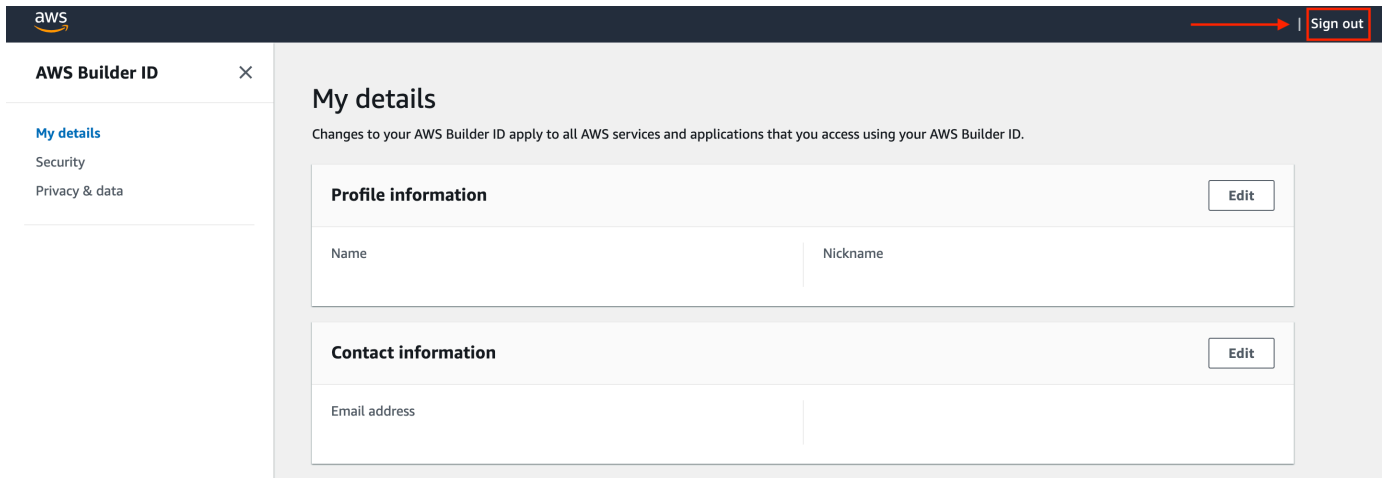
2. サインアウトに成功すると、AWS アクセスポータルのサインインページが表示されます。

AWS ビルダー ID からのサインアウト

AWS ビルダー ID を使用してアクセスした AWS サービスからサインアウトするには、サービスからサインアウトする必要があります。AWS ビルダー ID プロファイルからサインアウトする場合は、以下の手順を参照してください。

AWS Builder ID プロファイルからサインアウトするには

1. <https://profile.aws.amazon.com/> で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインすると、個人情報が表示されます。
2. AWS ビルダー ID のプロフィールページの右上にある 個人情報サインアウト個人情報 を選択します。



The screenshot displays the AWS Builder ID 'My details' page. At the top left is the AWS logo. In the top right corner, there is a 'Sign out' button with a red arrow pointing to it. On the left side, there is a navigation menu with 'AWS Builder ID' and a close button (X), and sub-links for 'My details', 'Security', and 'Privacy & data'. The main content area is titled 'My details' and includes a note: 'Changes to your AWS Builder ID apply to all AWS services and applications that you access using your AWS Builder ID.' Below this, there are two sections: 'Profile information' with fields for 'Name' and 'Nickname', and 'Contact information' with a field for 'Email address'. Each section has an 'Edit' button.

3. AWS ビルダー ID プロファイルが表示されなくなると、サインアウトしたことになります。

サインインに関する問題 AWS アカウント のトラブルシューティング

サインインやその他の AWS アカウント 問題のトラブルシューティングには、こちらの情報を参考にしてください。にサインインする step-by-step 手順については [AWS アカウント](#)、「」を参照してください [へのサインイン方法 AWS](#)。

どのトラブルシューティングトピックもサインインの問題への対処に役立たない場合は、次のフォームに記入 AWS Support して ケースを作成できます。 [AWS のお客様であり、請求またはアカウントサポートを探しています](#)。セキュリティのベストプラクティスとして、AWS Support では、サインインしているアカウント AWS アカウント 以外の の詳細について説明できません。また、AWS サポートは、理由の如何を問わず、アカウントに関連付けられている認証情報を変更することもできません。

Note

AWS Support は、サポート担当者に連絡するための直接電話番号を公開していません。

サインインに関する問題のトラブルシューティングの詳細については、「 [へのサインインやアクセスに問題がある場合の対処方法](#)」を参照してください [AWS アカウント](#)。Amazon.com へのサインインに問題がある場合は、「 [Amazon カスタマーサービス](#)」を参照してください。

トピック

- [AWS Management Console 認証情報が機能しない](#)
- [AWS アカウントアカウントの E メールにアクセスできない](#)
- [MFA デバイスの紛失および故障時の対応](#)
- [AWS Management Console サインインページにアクセスできない](#)
- [AWS アカウント ID またはエイリアスを確認する方法](#)
- [アカウント検証コードが必要](#)
- [AWS アカウントのルートユーザーパスワードを忘れてしまった](#)
- [AWS アカウントのIAMユーザーパスワードを忘れてしまいました。](#)
- [のフェデレーティッド ID パスワードを忘れてしまった AWS アカウント](#)
- [既存の にサインインできず AWS アカウント、同じ E メールアドレス AWS アカウント で新しいを作成できません。](#)

- [利用停止中の AWS アカウントを再度有効にする必要があります](#)
- [サインインの問題 AWS Support については、に連絡する必要があります](#)
- [請求に関する問題 AWS Billing については、に連絡する必要があります](#)
- [小売注文について質問があります](#)
- [の管理に関するヘルプが必要です AWS アカウント](#)
- [AWS アクセスポータルの認証情報が機能しない](#)
- [の IAM Identity Center パスワードを忘れてしまった AWS アカウント](#)
- [IAM Identity Center コンソールにサインインしようとする、「お客様ではなく、当社です」というエラーが表示されます。](#)

AWS Management Console 認証情報が機能しない

ユーザー名とパスワードを覚えていても認証情報が使えない場合は、間違ったページに移動している可能性があります。別のページでログインしてみてください。

- ルートユーザーのサインインページ – を作成または所有 AWS アカウント していて、ルートユーザーの認証情報を必要とするタスクを実行している場合は、にアカウントの E メールアドレスを入力します [AWS Management Console](#)。ルートユーザーにアクセスする方法については、[ルートユーザーとしてサインインするには](#)を参照します。パスワードを忘れた場合、リセットすることはできません。詳細については、「[AWS アカウントのルートユーザーパスワードを忘れてしまった](#)」を参照してください。ルートユーザーのメールアドレスを忘れてしまった場合は、AWSからのメールが届いていないか確認してください。
- IAM ユーザーのサインインページ – ユーザーまたは他の誰かが 内に IAM ユーザーを作成した場合は AWS アカウント、サインインするためにその AWS アカウント ID またはエイリアスを知っている必要があります。 [AWS Management Console](#) にアカウント ID またはエイリアス、ユーザー名、パスワードを入力します。IAM ユーザーのサインインページにアクセスする方法については、「[IAM ユーザーとしてサインインするには](#)」を参照してください。IAM ユーザーパスワードを忘れた場合は、IAM ユーザーパスワードのリセットについて、「[AWS アカウントのIAMユーザーパスワードを忘れてしまいました。](#)」を参照してください。アカウント番号を忘れた場合は、メール、ブラウザーのお気に入り、またはブラウザーの履歴で、`signin.aws.amazon.com/` を含む URL を検索してください。アカウント ID またはエイリアスは、URL の "account=" テキストの後に続きます。アカウント ID またはエイリアスが見つからない場合は、管理者に連絡してください。この情報 AWS Support の復旧には役立ちません。アカウントIDまたはエイリアスは、サインインするまで表示されません。

AWS アカウントアカウントの E メールにアクセスできない

を作成するときは AWS アカウント、E メールアドレスとパスワードを指定します。これらは、AWS アカウントのルートユーザーの認証情報です。に関連付けられている E メールアドレスが不明な場合は AWS アカウント、を開くために使用された可能性のある組織の E メールアドレスに対して、@signin.aws または @verify.signin.aws で終わる保存されたコレスポンスを探します AWS アカウント。チーム、組織、家族の他のメンバーに聞いてみてください。知り合いがアカウントを作成した場合は、その人がアクセスできるように手伝ってください。

E メールアドレスがわかっても、E メールにアクセスできなくなった場合は、まず次のいずれかのオプションを使用して、E メールへのアクセスを回復します。

- E メールアドレスのドメインを所有している場合は、削除した E メールアドレスを復元できます。または、E メールアカウントにキャッチオールを設定することもできます。「キャッチオール」は、メールサーバーに存在しなくなった E メールアドレスに送信されたすべてのメッセージをキャッチし、別のメールアドレスにリダイレクトします。
- アカウントの E メールアドレスが企業 E メールシステムの一部である場合は、IT システム管理者に連絡することをお勧めします。管理者は、E メールへのアクセス許可の回復を支援できる可能性があります。

それでもにサインインできない場合は AWS アカウント、に連絡して代替サポートオプションを見つけることができます [AWS Support](#)。

MFA デバイスの紛失および故障時の対応

AWS アカウント ルートユーザー MFA デバイスが紛失したり、損傷したり、機能しなくなったりすると、アカウントへのアクセスを回復できます。IAM ユーザーは、デバイスを無効にするために管理者に連絡する必要があります。これらのユーザーは、管理者の支援なしに MFA デバイスを復元することはできません。管理者は通常、組織の他のメンバー AWS アカウント よりも高いレベルのアクセス許可を持つ情報技術 (IT) 担当者です。この個人がアカウントを作成し、ユーザーにサインインするためのアクセス認証情報を提供します。

MFA デバイスを復旧する step-by-step 手順については、[「MFA デバイスが紛失したり、動作しなくなった場合の対処方法」](#)を参照してください。

MFA デバイスの電話番号を更新する step-by-step 方法については、[「電話番号を更新して紛失した MFA デバイスをリセットする方法」](#)を参照してください。

MFA デバイスをアクティブ化する step-by-step 手順については、[「でユーザーの MFA デバイスを有効にする AWS」](#)を参照してください。

MFA デバイスを復旧できない場合は、[AWS Support](#) にお問い合わせください。

Note

IAM ユーザーは、管理者に連絡して MFA デバイスのサポートを受ける必要があります。AWS Support は MFA デバイスの問題で IAM ユーザーを支援することはできません。

AWS Management Console サインインページにアクセスできない

サインインページが表示されない場合は、ドメインがファイアウォールによってブロックされている可能性があります。ネットワーク管理者に連絡して、ユーザーの種類とサインイン方法に応じて、以下のドメインまたは URL エンドポイントを Web コンテンツフィルターソリューションの許可リストに追加してください。

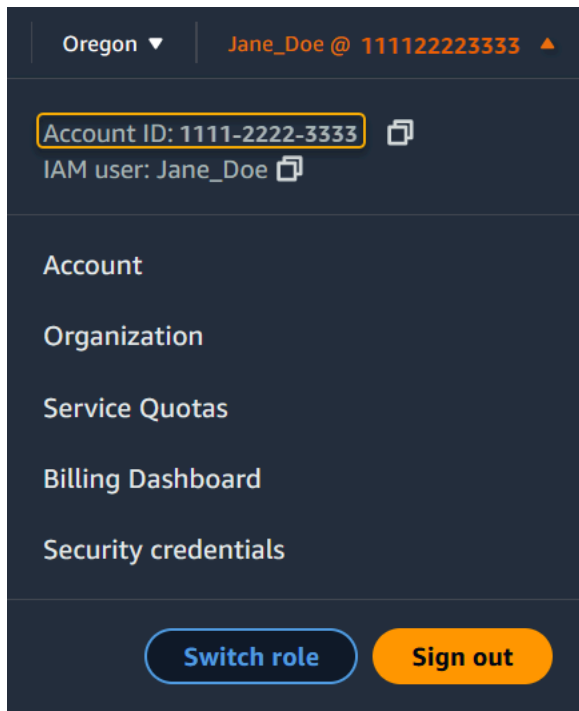
ルートユーザーと IAM ユーザー	*.signin.aws.amazon.com
Amazon.com アカウントへのサインイン	www.amazon.com
IAM Identity Center ユーザーとファーストパーティアプリケーションサインイン	<ul style="list-style-type: none">*.awsapps.com (http://awsapps.com/)*.signin.aws

AWS アカウント ID またはエイリアスを確認する方法

IAMユーザーでサインインしていない場合は、管理者に AWS アカウント のIDまたはエイリアスを問い合わせてください。管理者は通常、組織の他のメンバー AWS アカウント よりも高いレベルのアクセス許可を持つ情報技術 (IT) 担当者です。この個人がアカウントを作成し、ユーザーにサインインするためのアクセス認証情報を提供します。

へのアクセス権を持つ IAM ユーザーの場合 AWS Management Console、アカウント ID はサインイン URL にあります。管理者からのメールをチェックして、サインイン URL を確認してください。アカウント ID はサインイン URL の最初の 12 桁です。例えば、次の URL では、<https://111122223333.signin.aws.amazon.com/console> AWS アカウント ID は 111122223333 です。

にサインインすると AWS Management Console、リージョンの横にあるナビゲーションバーにアカウント情報が表示されます。例えば、次のスクリーンショットでは、IAM ユーザーの Jane Doe のは 1111-2222-3333 AWS アカウント です。



ユーザータイプ AWS アカウント に応じて を検索する方法の詳細については、次の表を参照してください。

ユーザータイプと AWS アカウント IDs

ユーザーのタイプ	手順		
ルートユーザー	右上のナビゲーションバーでユーザー名を選択した後、[セキュリティ認証情報] を選択します。アカウント番号は [アカウント識別子] の下に表示されます。		
IAM ユーザー	右上のナビゲーションバーでユーザー名を選択した後、[セ		

ユーザーのタイプ	手順		
	セキュリティ認証情報] を選択します。アカウント番号は [アカウント詳細] の下に表示されます。		
役割を引き受けた	右上のナビゲーションバーで、[サポート]、[サポートセンター] の順に選択します。現在サインインしている 12 桁のアカウント番号 (ID) は、サポートセンターナビゲーションペインに表示されます。		

AWS アカウント ID とエイリアス、およびその検索方法の詳細については、[AWS アカウント「ID とそのエイリアス」](#)を参照してください。

アカウント検証コードが必要

アカウントの E メールアドレスとパスワードを指定した場合、では 1 回限りの検証コードの提供が必要になる AWS ことがあります。検証コードを取得するには、に関連付けられている E メールに Amazon Web Services からの AWS アカウント メッセージが届いていることを確認します。E メールアドレスは @signin.aws または @verify.signin.aws で終わります。メッセージに記載されている手順に従います。アカウントにメッセージが表示されない場合、スパムや迷惑メールフォルダを確認してください。E メールへのアクセス許可がない場合、「[AWS アカウントアカウントの E メールにアクセスできない](#)」を参照してください。

AWS アカウントのルートユーザーパスワードを忘れてしまった

ルートユーザーで、のパスワードを紛失または忘れた場合は AWS アカウント、の「パスワードを忘れた場合」リンクを選択してパスワードをリセットできます AWS Management Console。AWS

アカウントの E メールアドレスを把握し、E メールアカウントにアクセスできる必要があります。パスワード復旧手順中に、パスワードをリセットするためのリンクがメールで送信されます。リンクは、 の作成に使用した E メールアドレスに送信されます AWS アカウント。

AWS Organizations を使用して作成したアカウントのパスワードをリセットするには、[「ルートユーザーとしてのメンバーアカウントへのアクセス」](#)を参照してください。

ルートユーザーパスワードをリセットするには

1. AWS E メールアドレスを使用して、ルートユーザー として [AWS マネジメントコンソール](#)にサインインを開始します。[次へ] を選択します。

Sign in

Root user
Account owner that performs tasks requiring unrestricted access. [Learn more](#)

IAM user
User within an account that performs daily tasks. [Learn more](#)

Root user email address

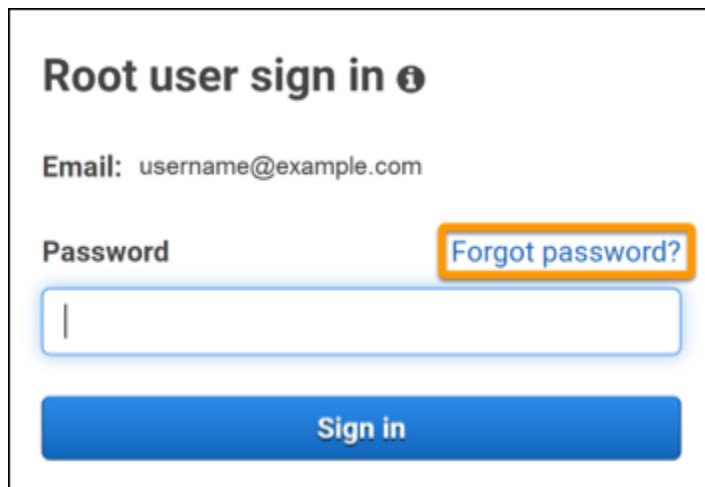
username@example.com

Next

Note

IAM ユーザー認証情報で [AWS Management Console](#) にサインインしている場合、root ユーザーのパスワードをリセットする前にサインアウトする必要があります。アカウント固有の IAM ユーザーのサインインページが表示された場合は、ページの下部付近にある [ルートアカウントの認証情報を使用してサインインする](#) を選択します。必要に応じて、アカウントの E メールアドレスを指定し、[次へ] を選択して [ルートuser sign in (ルートユーザーサインイン)] ページにアクセスします。

2. パスワードを忘れましたか？を選択します。



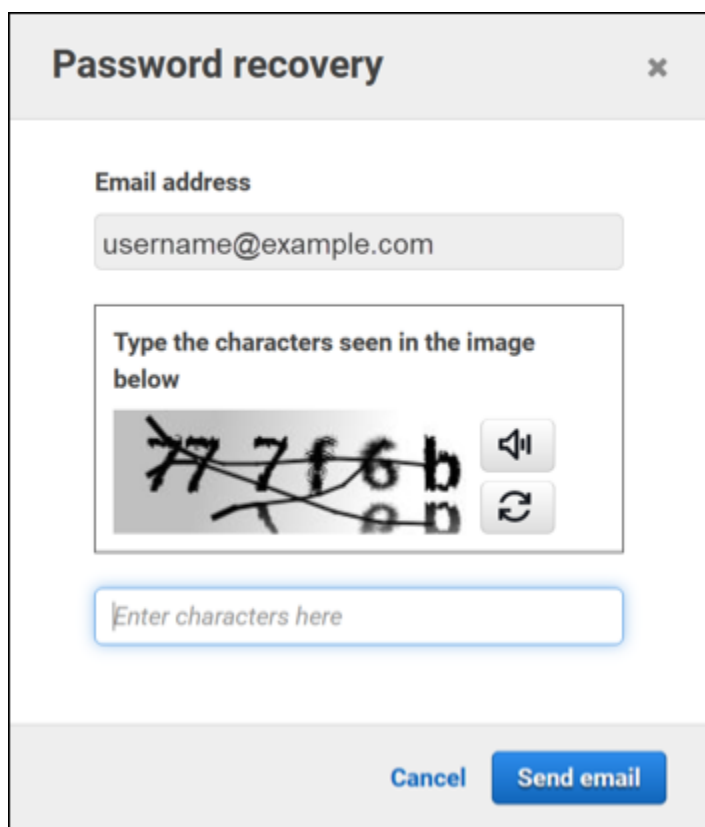
Root user sign in

Email: username@example.com

Password [Forgot password?](#)

Sign in

- パスワード復旧手順を完了します。セキュリティチェックを完了できない場合は、音声を聞か、セキュリティチェックを更新して新しい文字セットが試してください。パスワード復旧ページの例を次の画像に示します。



Password recovery

Email address

username@example.com

Type the characters seen in the image below

777f6b

Enter characters here

Cancel Send email

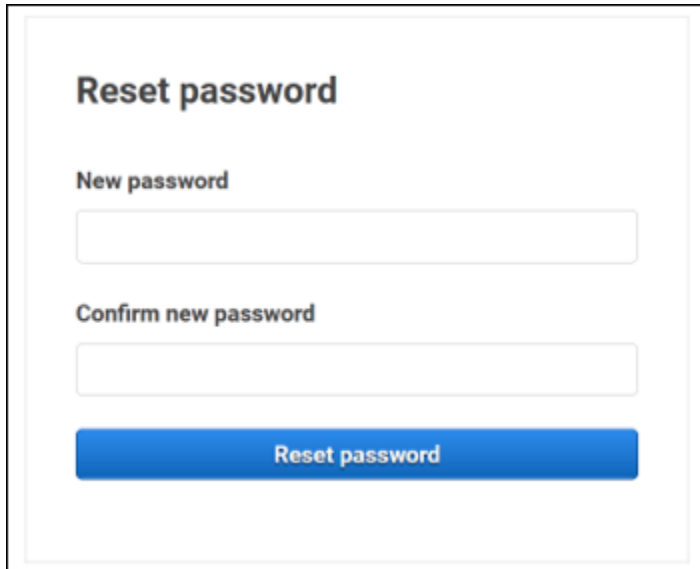
- パスワード復旧手順を完了すると、AWS アカウントに関連する E メールアドレスに詳細な手順が送信されたというメッセージを受け取ります。

AWS アカウントの作成に使用した E メールに、パスワードをリセットするためのリンクが送信されます。

Note

E メールは @signin.aws または @verify.signin.aws で終わるアドレスから届きます。

5. E AWS メールに記載されているリンクを選択して、AWS ルートユーザーのパスワードをリセットします。
6. リンクをクリックすると、新しいルートユーザーパスワードを作成するための新しい Web ページに移動します。



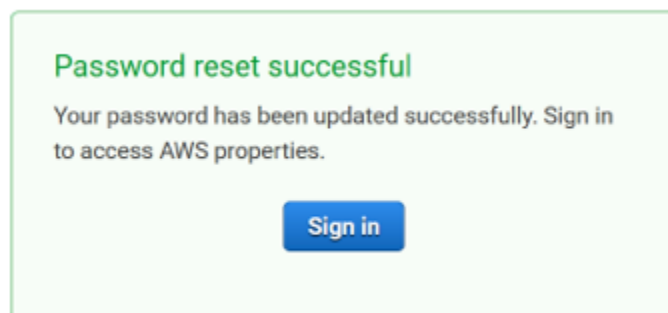
Reset password

New password

Confirm new password

Reset password

パスワードのリセットが成功したことを示す確認メッセージが届きます。パスワードのリセットが成功したことが次の画像に示します。



Password reset successful

Your password has been updated successfully. Sign in to access AWS properties.

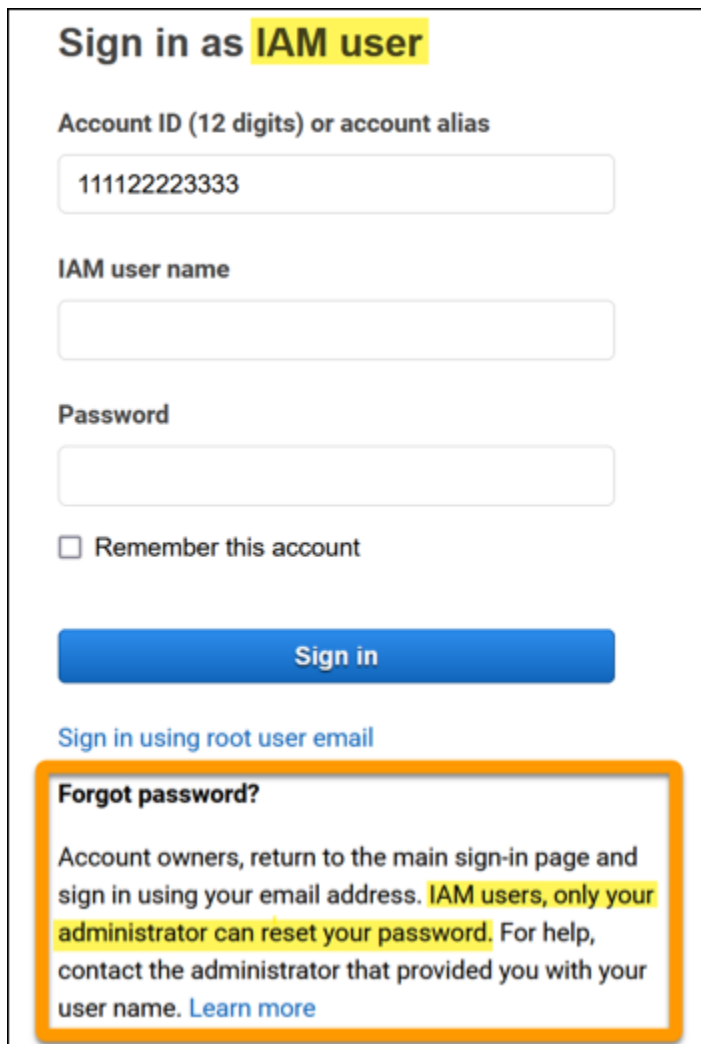
Sign in

ルートユーザーパスワードのリセットの詳細については、[「紛失または忘れた AWS パスワードを回復するにはどうすればよいですか？」](#)を参照してください。

AWS アカウントのIAMユーザーパスワードを忘れてしまいました。

IAM ユーザーのパスワードを変更するには、適切な権限が必要です。IAM ユーザーパスワードのリセットの詳細については、「[IAM ユーザーが自分のパスワードを変更する方法](#)」を参照してください。

パスワードをリセットする権限がない場合は、IAM 管理者だけが IAM ユーザーパスワードをリセットできます。IAM ユーザーは IAM 管理者に連絡して、パスワードをリセットする必要があります。管理者は通常、組織の他のメンバー AWS アカウント よりも高いレベルのアクセス許可を持つ情報技術 (IT) 担当者です。この個人がアカウントを作成し、ユーザーにサインインするためのアクセス認証情報を提供します。



The screenshot shows the AWS IAM sign-in interface. At the top, it says "Sign in as IAM user". Below this are three input fields: "Account ID (12 digits) or account alias" with the value "111122223333", "IAM user name", and "Password". There is a checkbox for "Remember this account" and a blue "Sign in" button. Below the button, there is a link "Sign in using root user email". At the bottom, a box with an orange border contains the text "Forgot password?" followed by instructions for account owners and IAM users, with "IAM users, only your administrator can reset your password." highlighted in yellow. A "Learn more" link is also present.

セキュリティ上の理由から、AWS Support には認証情報を表示、提供、または変更するアクセス許可はありません。

IAM ユーザーパスワードのリセットの詳細については、[「紛失または忘れた AWS パスワードを回復するにはどうすればよいですか？」](#)を参照してください。

管理者がパスワードを管理する方法については、[IAMユーザーのパスワード管理](#)を参照してください。

のフェデレーテッド ID パスワードを忘れてしまった AWS アカウント

フェデレーテッド ID は、外部 ID AWS アカウント でアクセスするためにサインインします。使用する外部 ID のタイプによって、フェデレーション ID のサインイン方法が決まります。管理者はフェデレーション ID を作成します。パスワードをリセットする方法の詳細については、管理者に確認してください。管理者は通常、組織の他のメンバー AWS アカウント よりも高いレベルのアクセス許可を持つ情報技術 (IT) 担当者です。この個人がアカウントを作成し、ユーザーにサインインするためのアクセス認証情報を提供します。

既存の にサインインできず AWS アカウント、同じ E メールアドレス AWS アカウント で新しい を作成できません。

1 つの E メールアドレスには 1 つの AWS アカウントのルートユーザーにのみ関連付けることができます。ルートユーザーアカウントを閉鎖し、90 日以上閉鎖されたままになっている場合、このアカウントに関連付けられた E メールアドレス AWS アカウント を使用してアカウントを再オープンしたり、新しい を作成したりすることはできません。

この問題を解決するには、新しいアカウントにサインアップするときに、通常の E メールアドレスの後にプラス記号 (+) を追加するサブアドレスを使用します。プラス記号 (+) の後には、大文字または小文字、数字、または SMTP (簡易メール転送プロトコル) がサポートするその他の文字を付けることができます。たとえば、普段使っている E メールが `email@yourcompany.com` の場合、`email+1@yourcompany.com` または `email+tag@yourcompany.com` を使用できます。普段使っている E メールアドレスと同じ受信トレイに接続されていても、新しいアドレスと見なされます。新しいアカウントにサインアップする前に、追加した E メールアドレスにテストメールを送信して、メールプロバイダーがサブドレッシングをサポートしていることを確認することをお勧めします。

利用停止中の AWS アカウントを再度有効にする必要があります

AWS アカウントが停止されていて、それを回復する場合は、[「停止した を再度アクティブにするにはどうすればよいですか？」](#)を参照してください AWS アカウント。

サインインの問題 AWS Support については、 に連絡する必要があります

すべてを試した場合は、[請求情報とアカウントサポートリクエスト](#)を完了 AWS Support することでサポートを受けることができます。

請求に関する問題 AWS Billing については、 に連絡する必要があります

にサインインできず AWS アカウント、請求に関する問題 AWS Billing を に問い合わせたい場合は、[請求およびアカウントサポートリクエスト](#) から行うことができます。料金や支払い方法など AWS Billing and Cost Management、 の詳細については、[「 のヘルプの取得 AWS Billing」](#)を参照してください。

小売注文について質問があります

www.amazon.com アカウントに問題がある場合、または小売注文について質問がある場合は、[「サポートオプションとお問い合わせ」](#)を参照してください。

の管理に関するヘルプが必要です AWS アカウント

のクレジットカードの変更 AWS アカウント、不正行為の報告、または の閉鎖に関するサポートが必要な場合は AWS アカウント、[「に関するその他の問題のトラブルシューティング AWS アカウント」](#)を参照してください。

AWS アクセスポータルの認証情報が機能しない

AWS アクセスポータルにサインインできない場合は、以前に にどのようにアクセスしたかを記憶してみてください AWS。

パスワードを使ったことをまったく覚えていない場合

AWS 以前に 認証情報を使用 AWS せずに にアクセスした可能性があります。これは、IAM アイデンティティセンター経由のエンタープライズシングルサインオンでは一般的です。AWS この方法で にアクセスするということは、会社の認証情報を使用して、認証情報を入力せずに AWS アカウントまたはアプリケーションにアクセスすることを意味します。

- AWS アクセスポータル – 管理者が外部からの認証情報を使用して AWS にアクセスできるようにする場合は AWS、ポータルの URL が必要です。E メール、お気に入りのブラウザ、または `awsapps.com/start` や `signin.aws/platform/login` を含む URL に対するブラウザの履歴を確認してください。

例えば、カスタム URL には ID や `https://d-1234567890.awsapps.com/start` のようなドメインが含まれる場合があります。ポータルのリンクが見つからない場合は、administrator.AWS Support can にお問い合わせください。この情報の復旧はサポートされていません。

ユーザー名とパスワードを覚えていても認証情報が使えない場合は、間違ったページに移動している可能性があります。ウェブブラウザで URL を確認してください。 `https://signin.aws.amazon.com/` の場合、フェデレーテッドユーザーまたは IAM Identity Center ユーザーは自分の認証情報を使用してサインインできません。

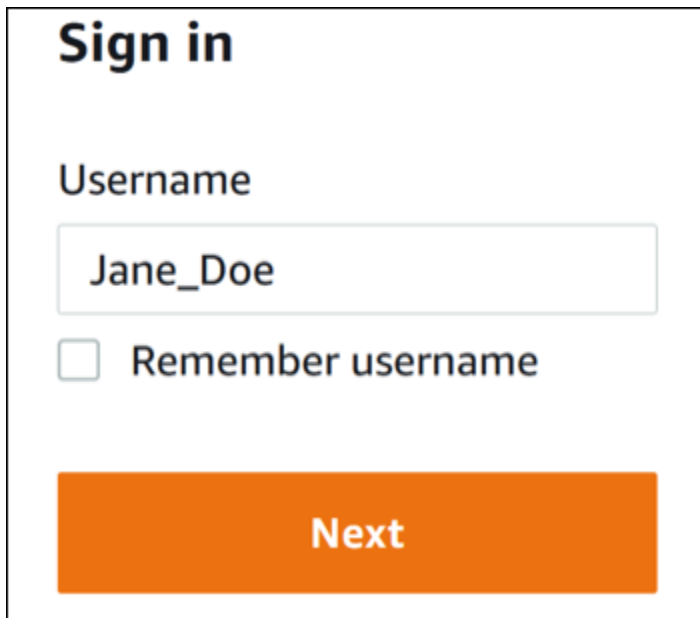
- AWS アクセスポータル – 管理者が の AWS IAM Identity Center (AWS Single Sign-On の後継サービス) アイデンティティソースをセットアップする場合は AWS、組織の AWS アクセスポータルでユーザー名とパスワードを使用してサインインする必要があります。ポータルのURLを見つけるには、E メール、安全なパスワードストレージ、ブラウザのお気に入り、またはブラウザの履歴で `awsapps.com/start` または `signin.aws/platform/login` を含む URL。例えば、カスタム URL に ID `https://d-1234567890.awsapps.com/start.` や などのドメインが含まれている場合があります。ポータルのリンクが見つからない場合は、管理者にお問い合わせください。この情報 AWS Support の復旧には役立ちません。

の IAM Identity Center パスワードを忘れてしまった AWS アカウント

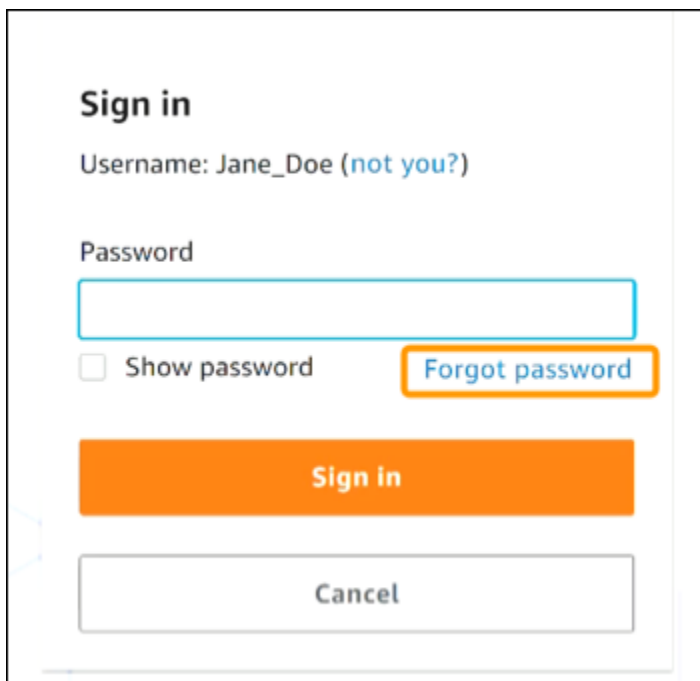
IAM Identity Center のユーザーで、AWS アカウントのパスワードを紛失または忘れた場合は、パスワードをリセットできます。IAM Identity Center アカウントに使用している E メールアドレスを知っており、アクセス権限を持っている必要があります。パスワードをリセットするためのリンクが AWS アカウント E メールに送信されます。

IAM Identity Center でユーザーのパスワードをリセットする手順

1. AWS アクセスポータルの URL リンクを使用して、ユーザー名を入力します。[次へ] を選択します。



2. 次の画像に示すように、「パスワードを忘れた場合」を選択します。



3. パスワード復旧手順を完了します。

Forgot password

Verify that you're a real person. Enter the characters from the image below.

Username: Jane_Doe

25br2n

Next

Cancel

4. パスワード復旧手順を完了すると、パスワードのリセットに使用できる E メールメッセージが送信されたことを確認する以下のメッセージが表示されます。

Reset password email sent

Please check your inbox. If you did not receive a password reset email, confirm that your username is correct, or ask your administrator to check your registered email.

Continue

パスワードをリセットするためのリンクが記載された E メールが、IAM Identity Center ユーザーアカウントに関連付けられている E メールに送信されます。E AWS メールに記載されて

いるリンクを選択して、パスワードをリセットします。リンクをクリックすると、新しいパスワードを作成するための新しい Web ページに移動します。新しいパスワードを作成すると、パスワードのリセットが成功したことを示す確認メッセージが表示されます。

パスワードをリセットするためのメールが届かない場合は、管理者に IAM Identity Center での E メールがユーザーに登録されているかを確認するよう依頼してください。

IAM Identity Center コンソールにサインインしようとする、「お客様ではなく、当社です」というエラーが表示されます。

このエラーは、IAM Identity Center のインスタンスまたは ID ソースとして使用している外部 ID プロバイダー (IdP) にセットアップの問題があることを示しています。以下を確認することをお勧めします。

- サインインに使用しているデバイスの日付と時刻の設定を確認します。日付と時刻を自動的に設定できるようにすることをお勧めします。利用できない場合は、既知の [Network Time Protocol \(NTP\)](#) サーバーに日付と時刻を同期することをお勧めします。
- IAM Identity Center にアップロードされた IdP 証明書が、ID プロバイダーから提供された証明書と同じであることを確認します。[IAM Identity Center コンソール](#)から証明書を確認するには、設定に移動します。「アイデンティティソース」タブの「アクション」で、「認証の管理」を選択します。新しい証明書をインポートする必要がある場合があります。
- IdP の SAML メタデータファイルで、NameID 形式がであることを確認します `urn:oasis:names:tc:SAML:1.1:nameid-format:emailAddress`。
- AD Connector を使用している場合は、サービスアカウントの認証情報が正しく、有効期限が切れていないことを確認します。詳細については、「[で AD Connector サービスアカウントの認証情報を更新する AWS Directory Service](#)」を参照してください。

AWS Builder ID の問題のトラブルシューティング

この情報を使用して、に関する問題のトラブルシューティングを行います AWS ビルダー ID。

トピック

- [メールアドレスが既に使われています](#)
- [メールの確認を完了させることができない](#)
- [自分のでサインインしようとする、「お客様ではなく、当社です」というエラーが表示されま
す。AWS ビルダー ID](#)
- [パスワードを忘れてしまいました](#)
- [新しいパスワードを設定できない](#)
- [パスワードが機能しません。](#)
- [パスワードが機能せず、AWS Builder ID の E メールアドレスに送信された E メールにアクセスで
きない](#)
- [MFA を有効にできない](#)
- [認証アプリケーションを MFA デバイスとして追加できない](#)
- [MFA デバイスを削除できない](#)
- [認証アプリケーションを使用して登録やサインインをしようとする、「予期しないエラーが発生
しました」というメッセージが表示されます](#)
- [サインアウトしても完全にサインアウトされない](#)
- [まだ問題を解決しようとしています](#)


メールアドレスが既に使われています

入力した E メールが既に使用中であり、それを自分のものとして認識した場合は、Builder ID AWS にサインアップ済みである可能性があります。そのメールアドレスを使用してサインインしてみてください。パスワードを覚えていない場合、「[パスワードを忘れてしまいました](#)」を参照してください。

メールの確認を完了させることができない

AWS Builder ID にサインアップしたが、検証メールを受信していない場合は、次のトラブルシューティングタスクを完了します。

1. スпамアイテム、迷惑メールアイテム、削除済みアイテムのフォルダを確認してください。

 Note

この検証 E メールは、no-reply@signin.aws または no-reply@login.awsapps.com のアドレスから送信されます。これらの送信者メールアドレスからのメールを受け入れ、迷惑メールやスパムとして処理しないように、メールシステムを設定することをお勧めします。

2. コードを再送信を選択し、受信トレイを更新して、スパムアイテム、迷惑メールアイテム、削除済みアイテムのフォルダをもう一度確認します。
3. それでも確認 E メールが表示されない場合は、AWS Builder ID の E メールアドレスでタイプミスがないか再確認してください。間違ったメールアドレスを入力した場合は、自分のメールアドレスでもう一度サインアップしてください。

自分の でサインインしようとする と、「お客様ではなく、当社です」というエラーが表示されます。AWS ビルダー ID

サインインに使用しているデバイスの日付と時刻の設定を確認します。日付と時刻を自動的に設定できるようにすることをお勧めします。利用できない場合は、既知の [Network Time Protocol \(NTP\)](#) サーバーに日付と時刻を同期することをお勧めします。

パスワードを忘れてしまいました

忘れたパスワードをリセットするには

1. AWS ビルダー ID でサインイン ページで、ビルダー ID の作成に使用した E メールを E AWS メールアドレスに入力します。次へ をクリックします。
2. パスワードを忘れましたか？ を選択します。パスワードをリセットできる AWS Builder ID に関連付けられた E メールアドレスへのリンクが送信されます。
3. メールの指示に従います。

新しいパスワードを設定できない

セキュリティ上の理由から、パスワードを設定または変更するときは必ず次の要件に従う必要があります。

- パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。
- パスワードの長さは8文字から64文字の間でなければなりません。
- パスワードには、次の4つカテゴリから少なくとも1文字を含める必要があります。
 - 小文字 a～z
 - 大文字 A～Z
 - 数字 0～9
 - 英数字以外の文字 ~!@#\$%^管理ポータル*_+=`|\}{:;'"<>,.?/
- 最後の3つのパスワードは再使用できません。
- 第三者から漏洩したデータセットを通じて公に知られているパスワードは使用できません。

パスワードが機能しません。

パスワードを覚えているが、AWS ビルダー ID でサインインするときに機能しない場合は、次の要件に従っていることを確認してください。

- キャップロックはオフです。
- 古いパスワードは使用していません。
- Builder ID AWS パスワードは、用ではなく、使用しているものです AWS アカウント。

パスワードが正しく up-to-date 入力されていることを確認しても機能しない場合は、「」の手順に従ってパスワード [パスワードを忘れてしまいました](#) をリセットしてください。

パスワードが機能せず、AWS Builder ID の E メールアドレスに送信された E メールにアクセスできない

それでも AWS Builder ID にサインインできる場合は、プロフィールページを使用して AWS Builder ID E メールを新しい E メールアドレスに更新します。E メール検証が完了すると、にサインイン AWS して、新しい E メールアドレスで通信を受信できます。

職場や大学のメールアドレスを使用していて、その後会社や学校を辞め、そのアドレスに送信されたメールを受信できない場合や、ビルダー ID にサインインできない場合は、そのメールシステムの管理者に連絡してください。メールを新しいアドレスに転送したり、一時的なアクセスを許可したり、メールボックスのコンテンツを共有したりできる場合があります。

MFA を有効にできない

MFA を有効にするには、[AWS ビルダー ID 多要素認証 \(MFA\) の管理](#) の手順に従って 1 つ以上の MFA デバイスをプロファイルに追加します。

認証アプリケーションを MFA デバイスとして追加できない

別の MFA デバイスを追加できない場合は、そのアプリケーションに登録できる MFA デバイスの上限に達している可能性があります。未使用の MFA デバイスを削除するか、別の認証アプリケーションを使用してみてください。

MFA デバイスを削除できない

MFA を無効にする場合は、[MFA デバイスを削除する](#) の手順に従って MFA デバイスを削除してください。ただし、MFA を有効にしておきたい場合は、既存の MFA デバイスを削除する前に、別の MFA デバイスを追加する必要があります。別の MFA デバイスの追加の詳細については、「[AWS ビルダー ID 多要素認証 \(MFA\) の管理](#)」を参照してください。

認証アプリケーションを使用して登録やサインインをしようとする と、「予期しないエラーが発生しました」というメッセージが表示 されます

Builder ID がコードベースの認証アプリケーションと組み合わせて使用するパスワードなど、タイムベースドワンタイムパスワード (TOTP) AWS システムは、クライアントとサーバー間の時間同期に依存します。認証アプリケーションをインストールしているデバイスが信頼できるタイムソースに正しく同期されていることを確認するか、またはデバイスの時間を、「[NIST](#)」やその他のローカル/地域など、信頼できるソースと一致するように手動で設定してください。

サインアウトしても完全にサインアウトされない

システムはすぐにサインアウトするように設計されていますが、完全にサインアウトするには最大で 1 時間かかる場合があります。

まだ問題を解決しようとしています

[サポートフィードバックフォーム](#)に記入できます。リクエスト情報セクションの「How can we help you」に、AWS Builder ID を使用していることを記載してください。問題に最大限効率的に対処できるように、できるだけ詳しく説明してください。

ドキュメント履歴

次の表に、AWS サインインドキュメントへの重要な追加項目を示します。また、お客様からいただいたフィードバックに対応するために、ドキュメントを頻繁に更新しています。

- ドキュメントの最新メジャー更新日: 2024 年 2 月 27 日

変更	説明	日付
トラブルシューティングに関するトピックを更新	AWS ビルダー ID と にサインインするための新しいトラブルシューティングトピック を追加しました AWS Management Console。	2024 年 2 月 27 日
組織に関するいくつかのトピックを更新しました	ユーザータイプ を更新、ユーザータイプの決定を削除、その内容を ユーザータイプ に組み込み、 にサインインする方法 AWS	2023 年 5 月 15 日
いくつかのトピックとトップバナーを更新しました	ユーザータイプ 、 ユーザータイプ を決定する、 にサインインする方法 AWS 、 AWS サインインとは? を更新しました。ルートユーザーと IAM ユーザーのサインイン手順も更新しました。	2023 年 3 月 3 日
AWS Management Console サインインの概要の段落を更新	ユーザータイプの決定 をページ上部に移動し、 アカウントルートユーザー にあるメモを削除しました。	2023 年 2 月 27 日
追加済み AWS ビルダー ID	AWS サインインユーザーガイドに AWS ビルダー ID トピックを追加し、コンテンツ	2023 年 1 月 31 日

を既存のトピックに統合しました。

[組織の最新情報](#)

お客様からのフィードバックに基づいて、サインイン方法についてより明確になるように目次を更新しました。サインインチュートリアルを更新しました。[用語](#)と[ユーザータイプの決定](#)を更新しました。IAM ユーザーやルートユーザーなどの用語を定義するためのクロスリンクが改善されました。

2022 年 12 月 22 日

[新しいガイド](#)

これは、AWS サインインユーザーガイドの最初のリリースです。

2022 年 8 月 31 日

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。